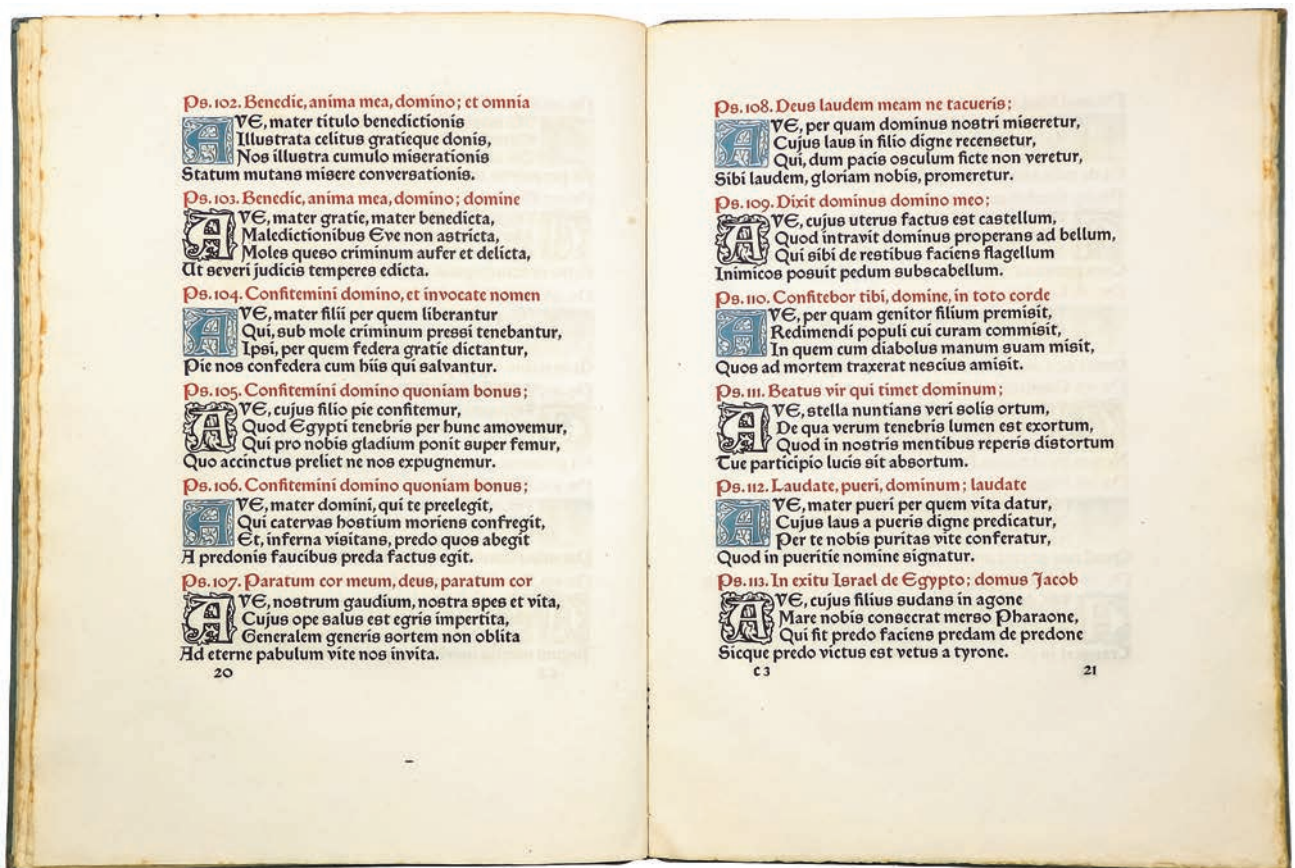


## ケルムスコット・プレス刊本『聖処女マリア讃歌』

下園 知弥  
勝野みずほ

## 『聖処女マリア讃歌』

1896年/ロンドン/ケルムスコット・プレス/書冊、パーチ紙に三色刷、クォーター・ホランド装

法量：29.0×21.0cm

西南学院大学博物館蔵

## はじめに

本資料紹介<sup>1</sup>は、19世紀イギリスの芸術家ウィリアム・モリス（William Morris, 1834-96）が晩年に設立した私家版印刷所「ケルムスコット・プレス Kelmscott Press」で手がけられた印刷本のうちの一冊である。

モリスという人物は、先に「芸術家」という肩書きで紹介したが、生涯を通して数多の事業に挑戦し、その多くで大きな成功を取めた人物である。モリスの仕事の転身ぶり、そしてその時々における熱量は凄まじく、それを評してオックスフォード大学時代以来の友人であったエドワード・バーン＝ジョーンズ（Edward Burne-Jones, 1833-98）は「一瞬一瞬が生命力に満ち満ちた時」だと語ったほどであった<sup>2</sup>。したがって、「芸術家」という肩書きのみでモリスおよび彼の仕事の特徴を言い尽くすことはできないし、また「詩人」「デザイナー」「社会主義者」といったモリスにしばしば適用される他の肩書きについても同様である。

とはいえ、本資料について紹介するうえで、モリスのどの側面を最も強調しなければならないかと考えた時、それは芸術家——より厳密に言えば、書物芸術家——であると思われる。なぜならば、本資料は「ケルムスコット・プレス」というモリスが晩年に全精力を尽くして試みた印刷事業の所産であり、ケルムスコット・プレスの書物のすべてがそうであるように、モリスの書物に関する芸術思想がモノとして体現されているからである。

本資料紹介では、まず書物芸術家としてのウィリアム・モリスの思想とその背景について、次いでモリスの時代における印刷文化の状況およびモリスが設立したケルムスコット・プレスについて、最後に『聖処女マリア讃歌』について紹介する。

### 1. ウィリアム・モリスの「中世主義」

モリスの思想ないし芸術観を指す言葉としてしばしば用いられるのは「中世主義 Medievalism」<sup>3</sup>で

ある。中世主義は、19世紀ヨーロッパ全体にみられる思想的流行であり、イギリスにおいてもジョン・ラスキンをはじめとする多くの主導者・賛同者が存在していた。芸術の分野においても、ラスキンに支持されていたラファエル前派という画派が台頭しており<sup>4</sup>、モリスとバーン＝ジョーンズは学生時代の1855年に彼らの作品をルーヴル美術館の展覧会で目にしている。そしてその後、モリスは聖職者になるという当初の夢を捨て、建築家になることを志すようになったのである<sup>5</sup>。

モリスが自身の芸術として最初に「建築」を選んだ理由は、知的世界の流行と彼自身の資質の両要素が共に関係しているように思われる。

19世紀のイギリスは、中世主義の一つの発露として、ゴシック建築のような中世の文化・精神を復興せんとする「ゴシック・リヴァイヴァル Gothic Revival」<sup>6</sup>が流行していた。さらに、モリスがオックスフォード大学に入学した時にはすでに、ラスキンが3巻から成る建築書『ヴェネチアの石 *The Stones of Venice*』を刊行していた。そしてこの著作のゴシック建築論にモリスは大きな影響を受けていたのである<sup>7</sup>。

ゴシック・リヴァイヴァルという知的世界の流行の中に身を置きつつ思想を深めていったモリスは、やがて建築を民衆による手仕事の総体として規定するようになる<sup>8</sup>。というのは、「建築のあらゆる仕事は協同の仕事co-operationである」<sup>9</sup>と認識していたからである。ここでco-operationという言葉と共にモリスが思い浮かべていた仕事は、中世のギルド職人たちのそれであったと考えられる。そのことは、たとえば1893年のモリスの講演「ゴシック建築 Gothic Architecture」から推測できる。

ゴシック建築がこのような自由の最大限を獲得したのは、ヨーロッパの職人たち、すなわち自由都市のギルドの職人たちの手によってであった。これらの職人たちは、彼らが自分たちの協同生活をいかに高く評価しているかを、それを守るためには個々人の生命をもあえて危険にさ

らす大層な勇気をもって、血腥い戦場で幾度となく示してきた。しかし、当初から、その傾向は、その自由を可能ならしめる協同的調和co-operative harmonyに手と精神を従属させる自由の方向にあった。これがゴシック建築の精神であった。<sup>10</sup>

このように、モリスの建築観は彼自身の中世主義と深く結びついており、また時代状況がその資質を訓育していたのである。それゆえ、青年時代のモリスはまず建築家となる道を選んだのであろう。いわば、中世主義がモリスをまず建築の道へと誘ったのであった。

では、モリスがのちに建築ではなく工芸デザインを手掛けるようになり、晩年には印刷事業に専心していたという事実は、建築家という夢の挫折ないし方針転換と見做すべきであろうか。仕事の産物だけに注目するならば、そこに大きな転身があったのは事実である。また、修行はしたものの大きな成果を挙げるができなかったという意味で、モリスが建築家として挫折を経験したのも確かである。しかしながら、書物や工芸品のデザインのような装飾芸術は「小芸術 Lesser Arts」であるが、小芸術は建築や絵画・彫刻といった「大芸術 Greater Arts」とは本来切り離すことができないものである、という思想<sup>11</sup>を後年になってモリスが確立したことに鑑みると、モリスの活動はその理念・目標において一貫しており、建築家としての修行を積んだ経験は意義ある過程としてモリスの中で息づいていたと考えるべきであろう。

藤田治彦は、近代デザインの源流としてのモリスは後進に大きな影響を与えたものの彼自身が変革を果たすことはできなかった、とするデザイン史における一般的なモリス評価に異議を唱え、モリスの仕事の意味は「オルターナティブ」すなわち既存のものとは別の選択肢を示すことにあった、と考察している<sup>12</sup>。このような視点からモリスの仕事俯瞰してみると、モリスが手がけたさまざまな仕事は、建築であれ書物であれ、成果の大小に関係なく、時代

を支配する価値観とは異なるところから提示されたオルターナティブであり、自らが生きる時代の文化に対してより優れたオルターナティブを提示することそれ自身がモリスの目的であったように思えてくる。そしてそのオルターナティブの提示にあたって、分野の別を問わず根底に存していたのが、中世的な価値観への憧れ、すなわち中世主義であったと考えられる。

## 2. 装飾写本とインキュナブラ

モリスが本格的に印刷事業を手がけるようになったのは、ケルムスコット・プレスの設立以後、すなわち晩年になってからであるが、書物への愛着は青年時代にはすでに相当なものであったと考えられる。そしてモリスがとりわけ愛好していた書物は、装飾写本やインキュナブラ（初期活版印刷本）<sup>13</sup>といった中世の文化の産物であり、ここにも彼の中世主義を看取することができる。

モリスと中世の書物の出会いは大学時代にまで遡る。当時、オックスフォード大学に在学していたモリスは、大学附属のボドリアン図書館で『ダウス黙示録 *Douce Apocalypse*』<sup>14</sup>という13世紀の装飾写本（図1）を目にしており、これに感銘をうけている。その印象の大きさをたや、実現こそしなかったものの、晩年になってこの写本の復刻版を出版できないか検討し、1894年11月に調査のため同図書館を再び訪問しているほどである<sup>15</sup>。

上記のエピソードだけでもモリスの装飾写本への入れ込みようは明らかであるが、さらにモリスは、装飾写本の自作も試みている。確認されている限り、モリスの手による装飾写本は12点存在する<sup>16</sup>。それらの制作年代は1870年代に集中しており、この時期がモリスの装飾写本への興味が頂点に達していた時期だと考えられる。また、上記の写本以外にも1856年作とされる3葉の自作写本（試作と考えられる）も現存していることから、モリスは青年時代から書物芸術家となる道も視野に入れていたことがうかがえる。



装飾写本と並んでモリスが愛好していたもう一つの書物は、インキュナブラであった。モリスがインキュナブラおよびその印刷者たちを高く評価していたことは、たとえば1893年の講演「理想の書物 The Ideal Book」で優れた印刷者としてペーター・シュッファー (Peter Schöffer, c. 1425-c. 1503)、ヨハン・シュッスラー (Johann Schüssler, active 1470-73)、ニコラ・ジャンソン (Nicolas Jenson, c. 1420-80) らの名前が挙げられていることからして明らかである<sup>17</sup>。また、モリスはインキュナブラのコレクターでもあり、所蔵数こそ多くないもののインキュナブラの良品を長い間所蔵したことがわかっている<sup>18</sup>。

それでは、一芸術家ないしコレクターとして、モリスは装飾写本とインキュナブラのどちらをより優れた書物芸術と考えていたのであろうか。この問いに対しては、次のモリスの言葉が示唆に富んでいる。

最初の傾向が丘の頂上に達し、それから反対斜面を下り始めたように見える。十二世紀は種が蒔かれた世紀、十三世紀は木々の開花、十四世紀初頭は花が果実となって熟す芸術の秋と評してよいだろう。十四世紀中葉に至ると、衰退の兆候がおのずと目に入ってくる。何かがおかしくなってきたのがはっきりしてくる。芸術はますます精巧なものになったが、ますます美しくなるというわけではなく、十五世紀初頭から中葉にかけて、変化は誰の目から見ても驚くべきものだった。衰退が始まり、中世が終わりを迎えようとしていたのである。この前兆として一般に引かれるひとつの事柄が、印刷術の発明である。<sup>19</sup>

ここでモリスは、いかにも中世主義者的な語り口で、13世紀から14世紀初頭までの時期を芸術の絶頂期として論じている。13世紀は先に触れた『ダウス黙示録』の制作時期であり、むしろモリスはこの装飾写本のことも念頭に置きつつこのように語ったの



図1 『ダウス黙示録』  
Bodleian Library MS. 180, fol. 29r.  
© Bodleian Libraries, University of Oxford



図2 時禱書零葉「受胎告知図」  
西南学院大学博物館 C-b-111

であろう。対照的に、中世末期に登場した印刷術は「衰退」の象徴とされており、芸術的な観点に関する限り印刷本は写本に劣っているというモリスの思想が透けて見えるようである。

それでは、モリスはインキュナブラを装飾写本よりも一段劣る芸術と見做していたかと言うと、単純にはそうと言い切れないところがある。先の引用には、以下の様な続きがあるのである。

もっとも、印刷術自体は発明というほどのものではなくて、むしろ、筆記を簡便にした粗末なものだった。印刷本と写本の相違は実際微々たるものだったのだ。<sup>20</sup>

印刷術の登場と芸術の衰退が一般的には関連づけられているとしておきながら、ここでモリスは印刷本と写本の相違を「微々たるもの」と言い切っている。つまりモリス自身は、一般に考えられているほど印刷本と写本の間にモノとしての差異は無いと考えていたわけである。一見するとモリスのこの判定は不可解であるが、この記述の念頭にあるのが16世紀以降の印刷本ではなくインキュナブラであったと考えるならば、合点がいく。なぜならば、インキュナブラの時代の書物制作にはまだ写本と同様の工程が残されており、活字や木版画が刻印されたのちに手仕事で装飾されるのが通常だったからである。そのため、図2のような、装飾写本と見紛うようなインキュナブラも珍しくなかったのである。

したがって、写本とインキュナブラの共通性・連続性を熟知していたモリスは、「写本だから優れている」「印刷本だから劣っている」といった形式の違いによる単純な線引きはせず、結果として産み出されたものの仕上がりで芸術の優劣を判断していたのだと考えられる。そしてその仕上りの平均的な水準という意味で、モリスの芸術観では、13世紀から14世紀初頭に制作された装飾写本が頂点に位置し、15世紀に制作されたインキュナブラはその下位に位置していたのであろう。

このようなモリスの芸術思想は、或る意味で非常

にフェアであり、表層的な中世主義とは一線を画している。もしモリスが表層的な中世主義者であったならば、写本ないしインキュナブラと全く同じ工程でごくわずかな書物を再現制作するだけで満足していたであろう。しかし実際には、彼はケルムスコット・プレスという自身の印刷事業において、中世の職人の仕事と当世の技術の調和を試みているのである。このことはモリスが表層的な中世主義者、つまり形式主義者ではなかったことの証左であろう。モリスにとって——少なくともケルムスコット・プレスを立ち上げた晩年のモリスにとって——自己満足的な書物制作以上に重要だったのは、同時代の文化へオルターナティヴを提示することであった。言い換えれば、それだけモリスは同時代の印刷文化へ強い不満を抱いていたのである。

### 3. ヴィクトリア朝の印刷文化

ヨハネス・グーテンベルク (Johannes Gutenberg, c. 1400-68) が活版印刷術を完成させて以降、鉄製印刷機が誕生するまで、印刷は「コモン・プレス」と呼ばれた木製印刷機によるものであった。1800年頃に第3代スタンホープ伯爵、チャールズ・スタンホープ (Charles Stanhope, 1753-1816) によって最初の鉄製印刷機が発明されると、その後20年のうちにドイツの発明家フリードリヒ・ケーニヒ (Friedrich Gottlob Koenig, 1774-1833) が蒸気動力の円圧印刷機<sup>21</sup>を発明する。これは19世紀末まで新聞や大衆雑誌を印刷するのに使われ、19世紀後半には手引き印刷機はめったに使われなくなっていた。しかし、わずかながら木製手引き印刷機は残っており、1877年のキャクストン展<sup>22</sup>などの特別な機会には動かされることもあった。

モリスは、テクノロジーの発展による印刷術の変容に批判的であったが、「当時〔15世紀〕の木版刷りの大きな難点のひとつは、プレスが弱いことだ」<sup>23</sup>と述べたように、古い印刷機が19世紀の鉄製手引き印刷機には及ばないことを理解していた。ウィリアム・S・ピーターソンが「モリスが好古趣

味にのみ突き動かされたのなら、おそらく木製印刷機に戻っていただろう」<sup>24</sup>と述べたように、彼の目的は中世の芸術を踏襲すること自体ではなかった。

印刷術における機械化の進展は、書物や定期刊行物を廉価にし、識字率を高めると思われた。一方で、ロンドンの印刷家兼印刷研究家であったT・C・ハンサード (T. C. Hansard, 1776-1833) が著書『タイポグラフィア *Typographia*』(1825年)の中で指摘したように、印刷工程の加速化によって従来タイポグラフィの水準と材料の質の低下を危惧する声も存在しており、次第にこれは現実となっていく。

同時期の印刷業界においては、書物の材料であるインクと紙が非常に安く手に入るようになっていた。インクは、1820年代頃まで油煙と亜麻仁油を使用した伝統的な処方で作られていたが、くっきりとした印刷面にするために石鹼がインク製造に用いられるようになり、次々にあらゆる種類の人工材料が発明された。また、製紙業も発達し、良質な白いぼろの代わりに漂白された粗悪なぼろが使用されたり、重厚な紙のように見せるために繊維に石膏や明礬が混入されたりすることもあった。モリスは、雑誌や新聞など一部の書物に廉価な紙を使用すること自体は認めつつも、「見事さや豪華さを装うことなどせず、あるがままの姿を示すべきである」と、手漉き紙を模倣した「見せかけばかりが上等な紙」を批判した<sup>25</sup>。

モリスは、19世紀に流行していた書体についても批判的な立場であった。当時使用されていた書物用のローマン体は、「ヴェネツィアン・タイプ」「オールド・フェイス・タイプ」「モダン・フェイス・タイプ」の3つに大別することができる。15世紀に初期の印刷家達がデザインしたヴェネツィアン・ローマン体からオールド・フェイスに至るまで、200年以上ローマン体は大きく変化することはなかったため、両者は非常に似通って見える<sup>26</sup>。一方で、オールド・フェイスとモダン・フェイスとの違いは顕著であった。

モダン・フェイスとは、18世紀にフランスのフィリッ

プ・グランジャン (Philippe Grandjean, 1666-1714) が創始し、その後、イタリアのジャンバッティスタ・ボドーニ (Giambattista Bodoni, 1740-1813) とフランスのフィルマン・デイド (Firmin Didot, 1764-1836) によって確立された新しい書体であった。彼らの書体は、垂直的な影付けや、支えのない線的なセリフ、ストロークの太い部分と細い部分の大きな対比を特徴に持ち、印刷面に軽い印象を与える。モダン・フェイスに対してモリスは、特にボドーニの名を挙げ「暑苦しくてぞっとする」<sup>27</sup>書体だと不快感を露わにしたが、一方でピーターズンは「万人受けはしないが美しい」<sup>28</sup>と評している。

デイド、ボドーニらの書体は、特にその後の活字の形に悪影響を及ぼすこととなった。19世紀に蒸気印刷機が導入されると、従来に比べ硬い金属活字が必要となった。硬い活字は、以前よりも格段に摩擦を食い止められるようになり、デイドやボドーニのモダン・フェイスより更にストロークやセリフを細くすることが可能となった。これらの線の細い活字は、インクをさほど必要とせず、薄いインクを使うことによつてのみうまく機能した。かくして、灰色っぽく弱々しいスタイルが誕生したのである。モダン・フェイスは、技術上の必要から始まった書体であったものの、次第にヴィクトリア朝後期の読者と業者の好みに合致するようになった。イギリスの定期刊行物『プリンターズ・レジスター *Printers' Register*』では、活字の繊細さが増すことは洗練さの増長であり、古い書体は重苦しく不恰好で、洗練されていないとさえ述べられている。ケルムスコット・プレスでモリスがデザインしたかっちりとした、重苦しいほどに濃い活字は、このような19世紀の貧弱で、薄く見えた活字への抵抗であったといえよう。

19世紀初頭には、モダン・フェイスへの反発として、オールド・フェイスを復興させようとする運動がいくつか興った。中でも、モリスらイギリスの印刷家に最も大きな影響を与えたのは、1840年台にチジック・プレス Chiswick Press社がウィリアム・キャズロン (William Caslon, 1692-1766) のオール



ド・フェイスを再び利用するようになったことであった。オールド・フェイスは、「洗練された」モダン・フェイスに馴染みのあったヴィクトリア朝において、アーツ・アンド・クラフツ展協会が創設された1888年頃まで一般には評価されなかった。しかし、モリスはキャズロン体を気に入り、ケルムスコット・プレス設立以前に制作した彼自身の印刷本に使用した。

同時期に、エディンバラの活字鋳造所ミラー・アンド・リチャード Miller and Richar社のA・C・フェミスター (A. C. Phemister, fl. 1860-94) によって「モダナイズド・オールド・スタイル (後にオールド・スタイルと呼ばれるようになる)」がデザインされた。モダン・フェイスの特徴を犠牲にすることなく、オールド・フェイスであるキャズロン体の味わいを出す目的でデザインされたために「妥協の産物」といった批判も受けたが、当時の新しいインクにもよく馴染み、結果的には19世紀末のイギリスにおいて最も広く普及した活字の一つとなった<sup>29</sup>。キャズロン体の再使用によってオールド・フェイスの復興に尽力したチジック・プレス社も、19世紀後半のイギリスで最も有名なオールド・スタイルの印刷所となった。モリスも自身の印刷工房を設立する以前は、チジック・プレスで書物を印刷している。

また、同じくオールド・スタイルの出版業者であったウィリアム・ピッカリング (William Pickering, 1796-1854) は、古い書体をまねたタイポグラフィを創案した。彼は、16世紀のヴェネツィアとリヨンの「古活字」に立ち戻った最初の人物であるとも言われる。古い書体を復刻する運動は20世紀に盛んになり、現代においてはありふれたものとなっている<sup>30</sup>。

一方、当時有名であったオールド・スタイルの印刷業者の中には、自らを「古風なQuaynt」という語で表し、古びた感じを出すために革や紙にシミを付けた書物を出版するような業者も存在した<sup>31</sup>。全てがこうした低級な改竄を受けたわけではなかったが、「オールド・スタイル」「古代風」「中世的」とはどのようなことか、という定義が曖昧であったこ

とも事実である。例えば、チジック・プレス社に次ぐオールド・スタイルの印刷会社であったグレシャム・スチーム・プレス社の活字見本帳にさえも、「中世の変わった文字を各種取り揃えております」といった文言が記載されているほどであった<sup>32</sup>。

このように、モダン・フェイスへの反発はモリスより遥かに前から始まっており、モリスの主張は時代の潮流から孤立したものでは無かった。つまり、19世紀イギリスを風靡した「好古趣味」が、見えやすい形で現れたものがケルムスコット・プレスであったといえる。しかしながら、モリスが目指したのは、単に「古風な」芸術を模倣することではなかった。彼は、中世の芸術の本質を研究し、自らその美しさを持つ書物を作り出すことによって、当時の議論へ一石を投じたのである。

## 4. ケルムスコット・プレス

### 4-1. ケルムスコット・プレス創設以前

モリスは、幼少期から書物を愛好し、生涯の様々な時期に書物への関心を寄せていたが、彼がケルムスコット・プレスで最初に印刷した本が完成したのは、彼が世を去る5年半前の1891年のことであった。わずかな時間でのケルムスコット・プレスの成功には、書物の「物質的な形態」を、モリスが生涯にわたって理解していたことが一因として挙げられる<sup>33</sup>。では、モリスがケルムスコット・プレスを創設するまでに、書物とどのような関わりを持っていたのであろうか。

本稿で既に述べたように<sup>34</sup>、モリスは学生時代より中世・近代の書物文化に強い関心を抱いており、独自の書物芸術論を展開するほどであった。たとえば、モリスとバーン＝ジョーンズは、19世紀の線の細い木版挿絵に批判的であり、肉太で簡潔な輪郭線、最低限の影づけなど、力強い画風を好んだ。彼らは、場合によっては当時の繊細な「木口木版 wood-engraving<sup>35</sup>」を讃えているものの、本文の書体との釣り合いが取れないため、書物の装飾には相応しくないと考えていた。一冊の書物のあらゆる

点において、特に本文と挿絵の間の調和を重んじる主張は、後にエマリー・ウォーカー（Emery Walker, 1851-1933）が講演で語った理想であり、後年のモリスの信条となる。これは、ケルムスコット・プレスを創設するまでに、ブック・デザインの世界に度々足を踏み入れ、幾度か失敗を繰り返す中で得た教訓であった。

1858年、モリスは最初の詩集を出版し印刷業に乗り出す。初期の印刷業の中で最も注目すべきは、1860年代に『地上楽園 *The Earthly Paradise*』の出版を試みたことであろう。自ら制作した木版挿絵入りで企画されたこの版は製作に膨大なコストを要するために中断したと考えられるが、現存する10ページの試し刷りからは、それ以外の問題点も浮かび上がってくる。すなわち、モリスの理想とした太々とした線の木版挿絵と、キャズロン体やバーゼル・ローマン体といった既存の書体で組まれた本文とが調和しなかったのである。この経験から、モリスは、美しい印刷の復活には挿絵の改善だけでは不十分であると学んだのであろう。1892年の講演「ゴシック本の挿絵 *The Woodcuts of Gothic Books*」において、モリスは本文と挿絵との関係を以下のように要約している。

挿絵入り本は、挿絵が印刷された本文にとってつけたものだというのでないのなら、調和のとれた芸術作品であるべきだ。活字、語間、紙面における活字のページの位置は、芸術的観点から考慮されるべきである。挿絵と他の装飾や活字との結合は、単なる偶然のものではなく、本質的で芸術的な結合であるべきなのだ。<sup>36</sup>

1870年代には、木口木版のオーナメントと挿絵に加えて、各ページを多数の手彩色で装飾するという構想で『恋だにあらば *Love is Enough, or the Freeing of Pharamond: A Morality*』の出版が計画された。この計画において、モリスは装飾イニシアルとボーダー（縁装飾）を数種類デザインし、パーン＝ジョーンズもまたボーダーや挿絵を制作した。

しかし、モダン・フェイスの活字で組まれた本文と、モリスらの木版画は、『地上楽園』と同様、全体の調和に欠いていた。結局、この構想は実現せず、1873年に装飾無しで出版されることとなったが、この経験は後にケルムスコット・プレスで同書が制作される際に役立った<sup>37</sup>。

このように、魅力的な印刷本を製作するという試みに挫折したモリスは、次第に手稿本の製作へと立ち返っていく。モリスは、1856年に彩飾を始めていたが、初期の作品はほとんど現存しない。当時のモリスは、徹底したゴシック様式を採用し、中世後期の写本を手本にしたとされる。モリスの関心が再び彩色手稿本へと戻った1869年には、様式は一変しローマン体が採用された。この頃、モリスはルネサンスの手書き文字の手引書を4冊<sup>38</sup>入手していた。同時期に、15世紀の写本を2点購入し、大英博物館で同時期の写本の研究を行っていたことも明らかになっている<sup>39</sup>。彼は、1869年から75年にかけて、カリグラフィとオーナメントのどちらの点においてもより優れた手稿本を制作した。ウィリアム・S・ピーターソンは、モリス自作の12の装飾写本がどの程度ケルムスコット・プレスの書物に影響を与えたかを見極めることは難しいと前置きながらも、これらはモリスにローマン体の文字の形態についての知識を与えたと推測している<sup>40</sup>。

1880年代、モリスは再び印刷の世界へと戻る。1885年から1890年にかけて社会主義同盟の定期刊行物『コモンウィール *The Common Weal*』の編集者として印刷に携わるほか、チジック・プレス社で3巻の書物のデザインを行っている。

#### 4-2. ケルムスコット・プレスの創設

度重なる、しかし散漫な印刷本への関心を見せたモリスであったが、1888年、アーツ・アンド・クラフツ展協会第一回展覧会で行われた、エマリー・ウォーカーの講演「活版印刷と挿絵 *Letterpress Printing and Illustrations*」が直接の起因となり、私家版印刷工房ケルムスコット・プレスの創設を決意した<sup>41</sup>。モリスとウォーカーは意気投合し、モリ



スはウォーカーに対して彼の工房の共同創始者となるよう持ちかける。ウォーカーはその提案こそ断ったが、その後もケルムスコット・プレスの私的なパートナーとしてモリスに助言を与え続けた。

先に触れたように、美しい書物に「調和」を条件としたモリスは、印刷所を創設するにあたって、理想的な太々とした線の本版面に合うような書体を開発するべきだと考えた。1889年には、モリスは彼による活字書体のうちの初めの1つである「ゴールデン体 Golden Type」<sup>42</sup>のデザインを始め、翌年の初めには、個人で活躍したイギリス最後の父型彫り師であったエドワード・プリンス（Edward Prince, 1847-1923）に父型を製作させていた。

モリスは、活字のデザインに当たって既に所持していたコレクションに加え、初期の印刷本のあらゆる活字を集めた。それらの活字はインクの使いすぎによって形が不鮮明なことが多かったため、写真製版技師であったウォーカーの手による拡大写真を使用し、実際の文字の形を判別した。機械化の促進に反対したモリスが何故カメラの使用を拒まなかったのか、という問いに対して、ピーターズは「モリスは機械それ自体に反対したのではなく、人間を服従させる力を持つときにのみ機械に反対した」<sup>43</sup>と結論付けている。モリスは、テクノロジーの発展による製作工程の加速化や効率化を拒んではいたものの、近代技術のすべてを盲目的に拒絶したわけではなかった<sup>44</sup>。

ゴールデン体のデザインは、モリスがインキュブラの拡大写真を使って文字をなぞり、少しずつ手を加え、ウォーカーが再び写真で原寸に縮小し、紙に押されたときのバランスを確認することで制作された。モリスは、ゴールデン体の制作について、以下のように記している。

そしてここで私が求めたのは、純粋な形態の文字だった。つまり、無用な突起のない簡素な文字であること。近代の通常の活字の根本的欠陥であって本を読みにくくする原因となる極端に太い線や細い線がないしっかりした文字である

こと。そして商売上の必要に迫られて最近の活字はおしなべて左右圧縮されて縦長のものになってしまっているのだが、そんなふうにはしゃげていない文字であること。<sup>45</sup>

モリスが自身のローマン体の手本としたのは、15世紀ヴェネツィアの出版人であったニコラ・ジャンソンがプリニウス著『博物誌 *Historia Naturalis*』（1476年）で使用した活字と、同じくヴェネツィアのヤコブス・ルベウス（Jacobs Rubeus, fl. 1473-99）がアレティヌス著『フィレンツェ市民の歴史 *Historiae Florentini Populi*』（1476年）で使用した活字であった。モリスはジャンソンを「ローマン字体をこれ以上いけぬというところまで発展させたと言わねばならない」<sup>46</sup>と高く評価しており、後のインタビューでは彼らが使用した活字はほとんど改変されることはなかったと語る。しかしながら、ゴールデン体の最終的な形は旧来のローマン体活字を隷属的に模写したものではなく、ストロークを太くし、板状のセリフにし、当時流行した覇気のない書体に反抗するようなものであった。また彼は、近代の印刷家が必ずと言っていいほど使用したイタリック体や記号の活字を作成せず、取り入れることがなかった。ゴールデン体は、当時イングリッシュと呼ばれていた大きな寸法（現在の14ポイントに相当）で作られ、左右に圧迫されることなく個々の字幅も大きく取られた。

「昔の最良のものと同じくらい良質のローマン字体」を得た<sup>47</sup>モリスは、ゴシック体活字のデザインに乗り出した。ゴシック体は、イギリスでは今や使われなくなった<sup>48</sup>というのが当時の一般的な認識であり、チジック・プレス社をはじめとした一部のオールド・スタイルの出版社による試みを除けば、ゴシック体を本文の書体として復活させる運動は見られなかった<sup>49</sup>。モリスは、ゴシック体の活字を読みにくいという非難から救い出すことを目的とし、マインツのペーター・シェッファーによる1462年版の聖書の活字を基礎としてデザインを始めた。ゴールデン体と同様に、ウォーカーの写真技術を使用し

て1892年に完成したこの書体は、最初に用いた『トロイ物語集成 *The Recuyell of the Historyes of Troye*』にちなんで「トロイ体 Troy Type」と名付けられた。更に同年、モリスは2段組のチャウサーの作品集のために、グレイト・プライマー（18ポイント相当）で鑄造したトロイ体を、やむを得ずパイカ（12ポイント相当）に縮小して「チャウサー体 Chaucer Type」を制作した<sup>50</sup>。

自らの活字制作の傍ら、1890年にモリスは自らの紙を持つ用意を始めていた。書籍用紙に類発した手漉き風の細工<sup>51</sup>や、重厚に見せかけるための混ぜもの、石鹼などの科学剤を使った漂白などを毛嫌いした彼は、リトル・チャートで製紙工場を営むジョゼフ・バッチェラー（Joseph Batchelor, 生没年不詳）

の元を訪れ、15世紀のボローニャで生産されたものを手本とした手漉き紙の作製を依頼した。幾度かの試作の末に、用紙が満足できるかたちで手に入るようになる、数種類の寸法<sup>52</sup>で注文し、他の用紙を使用することはなかった。バッチェラーの紙は、わずかに不規則な風合いにするために、ワイヤー・モールド（針金の漉型）を手編みしたものを用い、リネンだけで作っていた。この用紙を模した機械漉きの紙が流行したために、1895年にバッチェラーの発案で「ケルムスコット手漉き紙」と名付けられ販売されるようになる。ケルムスコット手漉き紙は、単に「古風に」見せかけたのではなく、これまで使用されてきた最高の書籍用紙を再現したものであった。販売が始まると、私家版印刷工房や、商業的な印刷

**After a while I felt that I must have a Gothic as well as a Roman fount; and herein the task I set myself was to redeem the Gothic character from the charge of unreadableness which is commonly brought against it. And I felt that this charge could not be reasonably brought against the types of**

ゴールデン・タイプ

**world; so do not I, nor any unblinded by pride in themselves and all that belongs to them: others there are who scorn it and the tameness of it: not I any the more: though it would indeed be hard if there were nothing**

トロイ・タイプ

**And Science, we have loved her well, and followed her diligently, what will she do? I fear she is so much in the pay of the counting-house, the counting-house and the drill-sergeant, that she is too busy, and will for the present do nothing.**

チャウサー・タイプ

図3 ケルムスコット・プレスの活字（実寸大）

ウィリアム・モリス『理想の書物』ウィリアム・S・ピータースン編、川端康雄訳、晶文社、1992年、274頁より。

業者の豪華版用に使用された。また、モリスは、限定部数ではあったが、ブレントフォードのヘンリー・バンド (Henry Band, 生没年不詳) に特注したヴェラムにも印刷を行っている。

自らの活字と用紙を揃えたモリスは、1891年の頭までには彼の最初の印刷機となる円胴インク練り盤を具えたデマイ判 (44.5cm×57.1cmの判型) のアルビオン・プレス<sup>53</sup>を入手しており、ケルムスコット・プレスでの印刷に必要な大方のものを揃え終えていた。湿らせた手漉き紙に印刷することを前提とした手引き印刷機の使用は、モリスがバチェラーの恒久性の高い紙を手に入れることで可能となった。アルビオン・プレスでの印刷はゆっくりとしたスピードで仕上がったために、ケルムスコット・プレスは黒々とした乾きにくいインクが使用できた。モリスは、当時イギリスで使用されていた灰色がかかったインクに満足できず、「しっかりしていて、恒久性があり、いかなる変色や褪色の可能性もない」インクを求めた。ケルムスコット版には、一時期を除き、ハノーヴァーのイエーネッケ兄弟商会 Gebrüder Jäneckeが製造するインクが用いられた。このインクは粘り気が強く、乾燥に時間がかかるため、後に『チョーサー物語集 *The Works of Geoffrey Chaucer*』を発行した際には、圧力をかける通常の製本を、最低1年間を行うことができなかったという。

1891年の頭、植字・印刷のスタッフとして、かつて『ユートピア便り *News from Nowhere*』を印刷していたウィリアム・H・ボウデン (William. H. Bowden, 生没年不詳) が招かれ、同年1月27日にバチェラーから届いた最初の紙に、『輝く平原の物語』の試し刷りが行われた。モリスは当初『黄金伝説』を最初の出版物にするつもりであったが、納品された小さい用紙には『輝く平原の物語』がよりふさわしいと計画を変更した。同書には、モリスの友人で、ヴィクトリア朝時代のイギリスを代表する挿絵画家であったウォルター・クレイン (Walter Crane, 1845-1915) が挿絵を手がけるという約束をしていたにも関わらず、一刻も早く最初の書物の印

刷を始めたかったモリスは、挿絵が無いままに計画を進めた<sup>54</sup>。

モリスが、「ケルムスコット・プレス」と名付けられた新たな事業を始動する、という噂は、1891年2月21日、『アシニウム *Athenaeum*』誌のコラム「文学界の噂 Literacy Gossip」に掲載され、同年4月4日には『輝く平原の物語』について更なる紹介がなされた。1891年11月19日のT・B・リード (Talbot Baines Reed, 1852-93) に宛てたウォーカーの手紙によると、『アシニウム』に掲載された途端、価格が発表されるはるか前にケルムスコット・プレスの最初の書物は完売となったという<sup>55</sup>。

かくして創始し、商業的な成功を取めたケルムスコット・プレスは、1891年から1898年の間に53書 (66巻)<sup>56</sup>の刊本を出版した。モリスの理想は、ケルムスコット・プレス最後の刊本となった『ケルムスコット・プレス設立趣意書 *A Note by William Morris on His Aims in Founding the Kelmscott Press*』 (1896年) や1890年代に行われたいくつかの講演などで明らかになっている。

彼は、1893年の講演「理想の書物 *The Ideal Book*」において、「まったく無装飾の書物であっても、それがいわば建築的によいものならば、醜くないばかりか、実際に絶対的に美しく見えうる」と語った。そして、「建築的なよさ」についてこのように続ける。

第一に、版面が鮮明で読みやすくなければならない。第二に、そのためにはどうしても活字のデザインをよくする必要がある。そして第三に、余白を狭くともろろが広くともろろが、版面と釣り合いがうまく取れていなければならない。<sup>57</sup>

モリスは、明瞭な版面のために、字間や行間を可能な限り狭くするよう述べた。また、見開き1頁が最小単位であるとし、四隅の余白は天>のど>地>小口の順にすべきだとした。モリスの活字書体への情熱は既に紹介した通りであるが、間隔と位置の間



題は美しい書物を制作するために一番大切なことであり、これらを考慮すればごく普通の活字でも美しい書物が制作できると考えていた。この原則は可読性を重視した結果であったが、かえって読みづらくなっている場合もある。モリスの理想像はある程度一貫しているように思えるが、「理想の書物」と現実が一致していたか否かの評価は分かれることであろう。

ここまで見てきたように、モリスは、19世紀の印刷業界に強い不満を抱いており、それらを排した「理想」を形にした。彼が至高とした中世の芸術作品が持つ本質を研究し、芸術的効果が損なわれない場合にのみ当時の技術を利用することで、両者を見事に調和させたのである。

## 5. 『聖処女マリア讃歌』の底本

最後に、西南学院大学博物館が所蔵する『聖処女マリア讃歌 *Laudes Beatae Mariae Virginis*』<sup>58</sup>について紹介したい。ケルムスコット・プレスより1896年7月7日に印刷され同年8月7日に刊行されたコッカレル番号43番の本書は、トロイ・タイプによって紙（パーチ紙）に印刷されている<sup>59</sup>。装丁はクォーター・ホランド装<sup>60</sup>と呼ばれるものである。

本書の一見して判る特徴は、黒・赤・青の3色刷になっている点であろう。ケルムスコット・プレスの中でも3色刷で刊行されたのは本書『聖処女マリア讃歌』（1896年）と『恋だにあらば』（1897年印刷／1898年刊行）の2冊だけである。本書では、27ページにわたって続く主要部分において、5行より成る各連の冒頭の聖句1行が赤、それに続く4行連の讃美歌が黒、各連のイニシアル（装飾頭文字）<sup>61</sup>が黒ないし青のインクで刷られている<sup>62</sup>。

さらに、多色刷という点だけでなく、本書にはもう一つ注目すべき特徴がある。それは「底本」である。この底本については特筆すべき点が二つある。

一つ目は、モリスが所有していた13世紀の詩篇歌 *Psalter* の写本を底本にしている、という点である<sup>63</sup>。この事実はモリス自身が本書の奥付に記して

いる。

これらの詩はイングランドの写字生によって筆写された詩篇歌より採られた。それはおそらく、十三世紀前半のミッドランド地方のものであろう。<sup>64</sup>

モリスが『ノッティンガム詩篇集 *Nottingham Psalter*』と呼んでいたところのこの写本——実際にはノッティンガム由来ではないようで、レディング・アビーの可能性が指摘されている<sup>65</sup>——は、モリスの死後売却され、現在はモルガン図書館・美術館に所蔵されている（MS M.103）<sup>66</sup>。写本に関するモリスの見識の正否は置いておくにしても、モリスが自身の所有していた写本を底本にして『聖処女マリア讃歌』を出版したことは、奥付としてモリス自身が記しているところであり、これまでの研究でもその点に異論は唱えられていないため、底本に関する情報は確かな事実と見做すことができる。

特筆すべき点の二つ目は、『聖処女マリア』の原テキスト著者が中世のカンタベリー大司教ステファン・ラングトン（Stephen Langton, c. 1150-1228）だという点である。同書を出版した時点では、モリスは底本にした写本の原著者を把握していなかったが、出版後に聖職者のE. S. デウィック（Edward Samuel Dewick, 1844-1917）がモリスに指摘したところによれば、1597年にテゲルンゼーで刊行された祈禱書 *Psalterium Divae Virginis Mariae* のテキストが『聖処女マリア讃歌』と一致しており、その著者はカンタベリー大司教ステファン・ラングトンとのものであった。デウィックのこの指摘は1896年に「ノート」としてチャーサー・タイプで印刷され、購読者に頒布されたようである<sup>67</sup>。

両書のテキストを比較すると、確かにテキストの大部分は一致しており、デウィックの指摘はおそらく当たっているだろう<sup>68</sup>。しかしながら、この二つの書物が同一の原典を持っていることが確かであっても、原著者に関する問題が何も残されていないわけではない。たとえば、モルガン図書館・美術館の

モリス旧蔵写本についてのCuratorial Descriptionでは、当該箇所のテキストの著者として、ラングトンだけでなくジョン・ペッカム（John Peckham, 1230-92）の名も挙げられている<sup>69</sup>。このように、『聖処女マリア讃歌』のテキストのすべてが必ずしもラングトンに帰せられるわけではなく、複数の著者のテキストが入り混じって全体が構成されている可能性もあるのである。また、モリスが「イングランドの写字生」と推測しているところの写本の書記者と原著者との関係も考察すべき問題であろう。したがって、テキストの原著者をめぐっては、まだまだ考察の余地が残されていると言える。

## おわりに

ケルムスコット・プレスは、印刷文化史上、大変意義深い印刷所・印刷本であることは論を俟たない。そこにはウィリアム・モリスという書物芸術家の理念と実践の成果が集約されており、また同時にモリスが生きていた時代・地域の書物文化の空気も深く染み付いている。本資料紹介で触れたのは、そのすべてではなく、あくまでも一端である。

ケルムスコット・プレスのうちの一冊である『聖処女マリア讃歌』を所蔵することができた西南学院大学博物館が次に目指すべきは、モリスに大きな影響を与えた中世・近代の書物と本資料とを比較研究することであると筆者は考えている。というのは、西南学院大学博物館には中世・近代の写本およびインキュナブラがまとまった数収蔵されているからである。それらの資料とケルムスコット・プレスの関連性を実物に即して正確に分析することができたならば、きっと、書物文化の新たな一面を提示することができるはずである。

## 註

1 本資料紹介は下園知弥（西南学院大学博物館教員）と勝野みずほ（西南学院大学博物館学芸調査員）の共著である。各著者の分担は以下のとおりである。下園：「はじめに」「1. ウィリアム・モリスの『中世主義』」「2. 装飾写本とインキュナブラ」「5. 『聖処女マリア讃歌』の底本」「おわりに」。勝野：「3. ヴィクトリア朝の印

刷文化」「4. ケルムスコット・プレス」。なお、補遺の「ケルムスコット・プレス『聖処女マリア讃歌』対訳」の編集は下園がおこなった。

- 2 蛭川久康『評伝 ウィリアム・モリス』平凡社、2016年、4頁。
- 3 「中世主義 Medievalism」という用語の初出は1844年と指摘されている（マイケル・アレクサンダー『イギリス近代の中世主義』野谷啓二訳、白水社、2020年、31頁）。なお、この指摘は *Oxford English Dictionary*（以下OED）を参照したものと思われる。OEDのMedievalismの用例一覧において、初出は次のように記されている。  
1844 Brit. Churchman Aug. 291 *There is many a one who fiercely denounces mediævalism, yet whose heart is tainted with the monastic or antisocial poison.*
- 4 1848年に結成されたラファエル前派 Pre-Raphaelite Brotherhoodは、結成当初から今日のように高い評価を得ていたわけではなく、むしろ同派の作品は当時の美術批評家から辛辣な非難を受けていた。この問題については出口智佳子「19世紀イギリスにおけるマリア表象：グランドマナーとラファエル前派」、下園知弥編『聖母の美：諸教会におけるマリア神学とその芸術的展開』所収、花乱社、2019年、68-71頁を参照。
- 5 小野二郎『ウィリアム・モリス：ラディカル・デザインの思想』中央公論社、1992年、36頁。
- 6 ゴシック・リヴァイヴァルは、単にゴシック建築を復興する運動ではなく、「中世に基盤を置いて、芸術や信仰や社会や労働のあらゆる局面を強い知的な精査に晒すことによって、現実世界を判断し、評価する物差しであった」と考えられる（マイケル・ルイス『ゴシック・リバイバル』栗野修司訳、英宝社、2004年、3頁）。また、ケネス・クラークはイングランドにおけるゴシック・リヴァイヴァルにおける建築と文学の密接な関連を指して「造形美術の分野におけるいかなる運動にも増して、ゴシック・リヴァイヴァルは文学的な運動でもあった」と述べている（ケネス・クラーク『ゴシック・リヴァイヴァル』近藤存志訳、白水社、2005年、20頁）。
- 7 小野二郎、前掲書、45頁。なお、モリスは『ヴェネツィアの石』における「ゴシックの本質 The Nature of Gothic」の章を1892年にケルムスコット・プレスで出版しており、その序文を自ら著している。
- 8 同書、48-50頁。
- 9 *Architecture and History*, 1884.（小野二郎、前掲書、48頁）
- 10 小野二郎、前掲書、145頁（一部私訳）。原文は以下（William Morris Archives [http://morrisarchive.lib.uiowa.edu/]より引用[2022年11月6日閲覧]）。
- The full measure of this freedom Gothic Architecture did not gain until it was in the hands of the workmen of Europe, the gildsmen of the Free Cities, who on many a bloody field proved how dearly they valued their corporate life by the generous valour with which they risked their individual lives in its defence. But from the first, the tendency was towards this freedom of hand and mind subordinated to the co-operative harmony which made the freedom possible. That is the spirit of Gothic Architecture.
- 11 William Morris, *The Lesser Arts, or The Decorative Arts*, 1877.（モリス『民衆のための芸術教育』内藤史朗訳、世界教育書選集63、明治図書出版、2000年、10頁）
- 12 藤田治彦『ウィリアム・モリス：近代デザインの原点』鹿島出版会、1996年、6-12頁、205-210頁。
- 13 インキュナブラ incunabulaとは、15世紀半ばのヨハネス・グーテンベルクによる西洋活版印刷術の発明・普及から1500年までにヨーロッパにおいて印刷された印刷物を指す用語である。インキュナブラという概念およびその物質的特徴については下園知弥、勝野みずほ共編『印刷文化の黎明：インキュナブラからキリシタン版まで』

- 花乱社、2022年、5-18頁（特に13頁）を参照。
- 14 MS. Douce 180. 本写本は2022年現在、全ページがデジタル化されており、以下のURLより閲覧することができる。https://digital.bodleian.ox.ac.uk/objects/d8f4f265-b851-48a8-b324-4fc871f68657/
- 15 ウィリアム・S・ピーターソン『ケルムスコット・プレス：ウィリアム・モリスの印刷工房』湊典子訳、平凡社、1994年、74頁。
- 16 モリスの手による装飾写本については、蛭川久康、前掲書、287頁にリストが掲載されている。
- 17 ウィリアム・モリス『理想の書物』ウィリアム・S・ピーターソン編、川端康雄訳、ちくま学芸文庫、2006年、172頁。
- 18 ピーターソン、前掲書（1994年）、75頁、114頁。
- 19 *The Early Illustration of Printed Books*: The first tendency seemed to get to the top of the hill, and then begin to go down the other side. The twelfth century might be described as the century when the seed was sown, the thirteenth when the blossom gave place to the ripe fruit. By the middle of the fourteenth century the decay was not merely a thing to be sought out; it becomes obvious something had gone wrong. Art became more and more elaborate, but not more and more beautiful, and the first years of the fifteenth century and towards the middle the change was startling enough to everybody. Decay had set in, and the Middle Ages were coming to an end. One thing generally quoted as a token of this was the invention of the art of printing, ... (William Morris, *The Ideal Book: Essays and Lectures on the Arts of the Book*, edited and introduced by William S. Peterson, University of California Press, London, 1982, p. 18. [『理想の書物』(2006年)、88頁])
- 20 *Ibid.*: [One thing generally quoted as a token of this was the invention of the art of printing,] in itself not much of an invention — rather a poor one of writing easy. The difference between the printed book and the written one was very little indeed. (William Morris, *op. cit.*, pp. 18-20. [『理想の書物』(2006年)、88頁])
- 21 Cylinder press. 平らな版に対して円筒形の圧胴を押し付けて印刷する印刷機の総称。
- 22 ここで言及しているキャクストン展 Caxton Exhibitionは、1467年にウェストミンスターに開設されたウィリアム・キャクストン William Caxton (c. 1422-91) によるイギリス初の活版印刷所の400周年を記念し、ロンドンのサウス・ケンジントン美術館（ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館の前身）で行われた展覧会のことである。
- 23 『理想の書物』(2006年)、109頁。  
木製印刷機の時代は、紙をたっぷり湿らせ、ひじょうに柔らかい銅ばり（パッキング）を当てて印刷することによって版をじゅうぶんに紙に押しつけていたので、「多くの本は〔中略〕このために大分損なわれている」ことをモリスは嘆いており（*The Ideal Book: Essays and Lectures on the Arts of the Book*, p. 32）、後にケルムスコット・プレスを創始する際に恒久性のある強い紙を作らせている。
- 24 ピーターソン、前掲書（1994年）、29頁。
- 25 『理想の書物』(2006年)、181頁。
- 26 ピーターソン、前掲書（1994年）、35頁。
- 27 『理想の書物』(2006年)、175頁。
- 28 ピーターソン、前掲書（1994年）、35頁。
- 29 同書、46-47頁。
- 30 ニコラ・ジャンソンの活字に着想を得てAdobe JensonやCentaurなどのコンピューターフォントがデザインされた他、デイドやボドローニの活字もコンピューターフォントとして複製されている。
- 31 ピーターソン、前掲書（1994年）、50頁。
- 32 Philip Unwin, *The Printing Unwins*, 1970, p. 30. (ピーターソン、前掲書 [1994年]、50頁。)
- 33 ピーターソン、前掲書（1994年）、67頁。
- 34 2節「装飾写本とインキュナブラ」を参照。
- 35 イギリスの木版画家トマス・ビュイック（Thomas Bewick, 1753-1828）によって完成された技術で、従来の板目木版と異なり、銅版用の彫刻刀（ビュラン）で木口を彫ることによってひじょうに微妙で精巧なニュアンスを表現することができた。
- 36 *The Woodcuts of Gothic Books*: An illustration book, where the illustrations are more than mere illustrations of the printed text, should be a harmonious work of art. The type, the spacing of the type, the position of the pages of print on the paper, should be considered from the artistic point of view. (*The Ideal Book: Essays and Lectures on the Arts of the Book*, 1982, p. 40. [『理想の書物』、123頁〈一部私訳〉)
- 37 パーン＝ジョーンズの挿絵2点のうち1点はこの際にデザインしたものを再び利用したものであった（ピーターソン、前掲書 [1994年]、85頁）。
- 38 ルドヴィーコ・アリ著『装飾文字 *La Operina*』、『流儀 *Il Mondo*』、シジスモンド・ファンチ著『手書の宝庫 *Thesaurus de Scrittori*』、ジョヴァントニオ・タリエンテ著『能筆の真の芸術 *La Vera Arte de Scrivere*』の四書で、いずれも1520年代に出版されたものである（P・トムスン『ウィリアム・モリスの全仕事』白石和也訳、岩崎美術社、1994年、232-233頁）。
- 39 トムスン、前掲書（1994年）、233頁。
- 40 ピーターソン、前掲書（1994年）、90-96頁。
- 41 モリスの研究の第一人者であるウィリアム・S・ピーターソンは、ウォーカーの講演「活版印刷と挿絵 Letterpress Printing and Illustrations」を「近代印刷の転換点」と評し、後にケルムスコット・プレスの第2代秘書となるシドニー・カーライル・コッカレルは「ウォーカーがいなかったのならば、ケルムスコット・プレスは存在しなかったといっても過言ではない」と述べている（Viola Meynell (ed.), *Friends of Life Time, Letters to Sydney Carlyle Cookerll*, 1940. : 蛭川、前掲書 [2016年]、397頁）。
- 42 結果的に、ケルムスコット・プレスで最初にゴールデン体の活字が使用されたのは『輝く平原の物語 *The Story of the Glittering Plain Which has been Also Called the Land of Living Men or, the Acre of the Undying*』となったが、当初モリスが最初に印刷しようと考えていた『黄金伝説 *The Golden Legend*』にちなんでゴールデン体 Golden Typeと名付けられた。
- 43 ピーターソン、前掲書（1994年）、117頁。
- 44 近代的な技術を受け入れるモリスの姿勢は、ケルムスコット版のイニシアルの制作に電鋳版を使用する提案を受け入れたことから理解できるだろう。電鋳版の使用に関しては、ピーターソン、前掲書（1994年）、183-184頁を参照。
- 45 *A Note by William Morris on His Aims in Founding the Kelmscott Press*: And here what I wanted was letter pure in form; severe, without needless excrescences; solid, without the thickening and thinning of the line, which is the essential fault of the ordinary modern type, and which makes it difficult to read; and not compressed laterally, as well later type has grown to be owing to commercial exigencies. (*The Ideal Book: Essays and Lectures on the Arts of the Book*, 1982, p. 75-76. [『理想の書物』(2006年)、189頁])
- 46 『理想の書物』(2006年)、161頁。
- 47 *The Ideal Book: Essays and Lectures on the Arts of the Book*, 1982, p. 70. [『理想の書物』(2006年)、177頁]
- 48 Caleb Stower, *Printer's Grammar*, 1808, p. 41. (ピーターソン、前掲書 [1994年]、61、128頁)
- 49 イギリスでは1877年のキャクストン展以降、古書や復刻版に対する関心が高まっており、ゴシック体の部分的な復活をも招いていた。19世紀末までのイギリスにおいて、ゴシック体は法律や教会関係な



- どの限られた書物の扉に意匠として使用されていたが、1890年代には再び書物や月刊誌にも登場するようになっていた。しかしながら、ゴシック体を書物の本文として再び使用する大掛かりな動きは見られなかった。ピータースン、前掲書 [1994年]、60-61頁を参照。
- 50 モリスは、どのような本の版面に使う場合であってもスモール・ピカ Small Pica (11ポイント相当) が最小の活字であるべきだと述べる (『理想の書物』、177-176頁)。
- 51 手漉きに見せかけるために、19世紀の書籍用紙の縁は切りそろえられないことが多くあった。ケルムスコット・プレスにおいても、初期の書物は耳がついたままとなっていたが、これはモリスが自身の書物はもう一度再製本されるはずであるという前提で考えていたからである。しかしながら、実際の所有者が再装幀を施さないと考えるようになると、1892年の『罪なき民の書』を最後に、以後縁を落として出版されるようになった (ピータースン、前掲書 [1994年]、150-151頁)。
- 52 ケルムスコット・プレスで使用された紙は、寸法によって「フラワー紙」「パーチ紙」「アップル紙」という名称 (愛称) で呼ばれ、それぞれの文様がウォーターマーク (透かし文様) として入っていた。
- 53 1822年にR・W・コウプ (R. W. Cope, ?-c. 1828) によりロンドンで考案された手引き印刷機で、1940年頃まで多くの印刷機メーカーで生産された。
- 54 この償いとして、1894年にウォルター・クレインがデザインした木口木版の挿絵入りの『輝く平原の物語』第2版が刊行された。
- 55 ピータースン、前掲書 (1994年)、142頁。
- 56 モリスの秘書 S. C. コッカレル (Sydney Carlyle Cockerell, 1867-1962) が付したケルムスコット・プレスの刊本番号。コッカレルは「ケルムスコット・プレス刊本解題」(『ケルムスコット・プレス設立趣意書A Note by William Morris on His Aims in Founding the Kelmscott Press』[No.53, 1898年] 所収) にこの番号を掲載しており、現在でもケルムスコット版を指す際には、このコッカレル番号 (No.1-53) が用いられる。
- 57 *The Ideal Book: First*, the pages must be clear and easy to read; which they can hardly be unless, *Secondly*, the type is well designed; and *Thirdly*, whether the margins be small or big, they must be in due proportion to the page letters. (*The Ideal Book: Essays and Lectures on the Arts of the Book*, 1982, p. 68. [『理想の書物』(2006年)、173頁])
- 58 本書 *Laudes Beatae Mariae Virginis* は、他の研究書・図録等の出版物において『聖処女マリア讃歌』『聖処女マリア讃』と訳されており、本資料紹介も訳語の慣例に従った。なお、筆者は『印刷文化の黎明：インクナブラからキリシタン版まで』の18頁において、本書名を『至福なるおとめマリアの讃歌』と訳しているが、その箇所に掲載している西南学院大学博物館所蔵本は本資料紹介で扱っているものと同一である。
- 59 本書は250部印刷された紙版のほか、10部のみ刷られたヴェラム版も存在する。西南学院大学博物館所蔵本は紙版である。
- 60 クォーター・ホランド装 quarter-holland について、ピータースン、前掲書 (1994年) では次のように説明されている。「装幀の様式で、表紙4半分にかけて背に麻を貼ったもの。ケルムスコット・プレスの書物の場合、表紙に厚紙を使い、青い紙を貼って、背に麻を貼っている。晒していない麻布を、最初の生産地にちなんでホランドという。」(461頁用語解説)
- 61 本書のイニシアル (装飾頭文字) には木口木版の図像を基にした電鍍版が使用されている。ピータースン、前掲書 (1994年)、183-184頁を参照。
- 62 ピータースン、前掲書 (1994年)、161頁；川端康雄「ケルムスコット・プレスと中世文学」『日本女子大学図書館だより』No. 167所収、2020年、5頁。
- 63 京都国立近代美術館ほか編『モダンデザインの父 ウィリアム・モリス』(NHK大阪放送局、1997年)の資料解説では、『聖処女マリア讃歌』のテキストは『ノッティンガム詩篇』から秘書コッカレルが匿名で用意した、と説明されている (161頁)。
- 64 "These poems are taken from a Psalter written by an English scribe, most likely in one of the Midland countries, early in the 13th century". (原文箇所図版は西南学院大学博物館のデジタルアーカイブを参照)
- 65 ピータースン、前掲書 (1994年)、161頁。
- 66 当該デジタルアーカイブへのリンクは以下。  
<https://www.themorgan.org/manuscript/77043> (2022年11月29日閲覧)
- なお、筆者が確認した時点では、『聖処女マリア讃歌』の底本となった箇所 (所蔵館のCuratorial Descriptionではf. 129以下とされている) の画像は未公開であった。
- 67 ピータースン、前掲書 (1994年)、161頁；関川左木夫、コーリン・フランクリン『ケルムスコット・プレス図録』雄松堂、1982年、163頁；"Laudes Beatae Mariae Virginis", Commentary by Alice H. R. H. Beckwith in *The Victorian Web*. (<https://victorianweb.org/art/design/morris/1.html> [2022年11月29日閲覧])
- 68 ケルムスコット・プレスの『聖処女マリア讃歌』と1597年刊行の *Psalterium Divae Virginis Mariae* のテキストは大部分一致しており、異なっている箇所も、中世ラテン語と近代ラテン語の違いや、テキストを写す過程で生じた誤記・単語の変容といったレベルに留まる細かな差異がほとんどであり、この二つの本が同じ原典に由来するテキストを筆写・印刷したものであることはほぼ確実である。比較に際して、*Psalterium Divae Virginis Mariae* のテキストは、バイエルン州立図書館所蔵本のデジタルアーカイブ画像を参照した。当該デジタルアーカイブへのリンクは以下。  
<https://www.digitale-sammlungen.de/en/details/bsb10591743> (2022年11月29日閲覧)
- 69 Curatorial Descriptionは以下のページに掲載されているリンクから確認できる (2022年11月29日閲覧)。  
<http://ica.themorgan.org/manuscript/description/77043>

下園 知弥 (しもぞの ともや)

西南学院大学博物館教員 (助教・学芸員)

勝野みずほ (かつの みずほ)

西南学院大学博物館学芸調査員

## 補 遺

### ケルムスコット・プレス『聖処女マリア讃歌』対訳

#### 【凡例】

- 本補遺は、ケルムスコット・プレス『聖処女マリア讃歌』（西南学院大学博物館所蔵本）の原文テキストおよびその和訳を収録したものである。
- 掲載箇所は『聖処女マリア讃歌』本文のみとし、白紙のページと奥付は除外した。また、編集のために印刷されたと思われる本文中の記号（ページ番号等）も除外した。
- 原文テキストの改行は原書に準じている。
- 原書でイニシアル（装飾頭文字）になっている箇所は、フォントサイズを大きくしてボールドにしている。
- 原文テキストおよび和訳は各ページに原書1ページ分ずつ掲載し、対応するページ数は各ページの上段に記載した。
- 和訳は編者（下園）の私訳である。聖句の箇所は聖書協会共同訳（日本聖書協会、2018年）を一部参照したが、聖句の引用が途中で途切れている箇所やラテン語原文と対応していない箇所が多かったため、基本的には私訳となっている。なお、詩篇の章番号は聖書協会共同訳ではなく原文に準じている。
- 本補遺には資料画像は掲載していないが、2023（令和5）年現在、西南学院大学博物館のデジタルアーカイブ（下記URL）において全ページの画像を公開している。

<http://www.seinan-gu.ac.jp/museum/search/museum/>

p. 1 原文<sup>1</sup>

**M**ENTE CONCIPIO  
 LAUDES CONSCRIBERE  
 SACRATE VIRGINI.  
 QUE NOS A CARCERE  
 SOLVIT POST FILIUM  
 GENUS IN GENERE,  
 MIRI MIRIFICANS  
 EFFECTUS OPERE.

Usus qui prebuit scribendi gratiam  
 Sermonis tribuat in affluentiam,  
 Ut ejus predicans laudes et gloriam,  
 Dulcoris intimi saporem sentiam.

Laudum preconia dictat affectio,  
 Sed lingua titubat, heretque ratio:  
 Nam quibus laudibus quove preconio  
 Referam virginem matremque nescio.

Hec matrum mater est, et gemma virginum,  
 Que vite peperit auctorem dominum,  
 Qui, mortem terminans per mortis terminum,  
 Ruine moriens succurrit hominum.

Hec mater virginis retento nomine,  
 Celestis nuntii fecunda fame,  
 Jus omne superat et usum femine  
 Cum nobis parturit deum in homine.

Salutat angelus, res mira sequitur,  
 Quod auris accipit intus concipitur,  
 Tumescit uterus, deus egreditur,  
 Vestitus homine, nec virgo leditur.

## 和訳

私は思い抱く  
 敬虔に書き留めることを  
 おとめに捧ぐ讃歌を。  
 貴女は牢獄より我らを  
 御子のあとに解放して下さった  
 高貴なる血統より出ずる方のあとに  
 貴女は讃えて  
 奇跡を為した。

書き記す恵みを与えて下さったその価値を  
 語りの恵みを豊かにして下さるその価値を  
 貴女の讃美と栄光を命ずる者として  
 深い甘味の味を私は感じるだろう。

告げ知らせる愛情が讃美を繰り返し語る  
 けれども言葉はふらつき、理性は硬直する  
 かの讃美によってか、告げ知らせによってか  
 私は知らず、おとめなる母を思い出す。

これぞ母たちの母、おとめたちの宝石よ  
 そのいのちが真正なる主を生んだ  
 その方は、死の淵を通過して死を終わらせ  
 死して滅びゆく人間たちを救われた方。

これぞおとめの名を持つ母よ  
 天の使者の豊かな語りによって語られし母よ  
 貴女はすべての法を超え、女性の必然を超え  
 我らと共なる人の中で神を孕まれた。

天使は踊り、驚くべき事柄が続く  
 耳で聞くことが心で受け容れられ  
 胎が膨らみ、神が出ずる  
 神が人となって、しかしおとめも損なわれず。

<sup>1</sup> pp. 1-2の箇所は、近代に印刷されたテゲルンゼー版  
 (*Psalterium Divae Virginis Mariae*, Tegernsee, 1579) では「著

者による序文 *Præfatio Authoris*」とされている。



## p. 2 原文

O res mirabilis, O rerum novitas,  
Se vestit homine summa divinitas,  
Lucet in virgine matris fecunditas,  
Et jugi lumine vernat virginitas.

Hec summa laudis est atque materia,  
Quod mater domini virgo fit regia,  
Promissa proferens in mundo gaudia,  
Sicut vox docuit de celo nuntia.

Quod ergo didici per celi nuntium,  
Archani mistici consecrarium,  
Dictamen offero salutatorium,  
Per matrem filio, matri per filium.

Benigna, suscipe, mater, quod offero,  
Litusque tangere fac me quo propero,  
Ut maris vortices cum pertransiero  
Quiete vivere possim de cetero.

Nec non et omnibus relaxes crimina  
Pro quibus supplicans fundo precamina,  
Nostrumque pariter et horum nomina  
Conscribi facias in vite pagina.

## 和訳

おお、驚くべき事柄よ おお、その新しきことよ  
至高の神性は自ら人となり  
おとめの内で母なる豊穡が輝き  
たえざる光で処女性が開花する。

これぞ讃美の頂、その源  
主の母であるおとめが女王となり  
約束された喜びを世にもたらしたのだから  
お告げの声が天より告げた如く。

ゆえに天の使者を通じて  
神秘の聖別者を通じて語ったことを  
私は謁見室へ捧ぐ  
母を通じて子に、子を通じて母に。

女王よ、受け取りたまえ、母よ、私が捧ぐものを  
急ぐ私を岸边に着かせたまえ  
私が通る時には渦潮が止んで  
私がさらに生きることができるよう。

確かに貴女は万物から過ちを解放してくださる  
祈願する者が心の底から祈ることで  
我らも等しく、この過ちという名から解放され  
いのちの書に貴女が記させてくださる。

## p. 3 原文

Ps. 1. Beatus vir qui non abiit in consilio impiorum.

**A**VE, virgo virginum, parens absque pari,  
Sine viri semine digna fecundari,  
Fac nos legem domini crebro meditari  
Et in regni gloria beatificari.

Ps. 2. Quare fremuerunt gentes; et populi meditati

**A**VE, cujus viscera natum ediderunt  
Cujus in interitum gentes fremuerunt,  
Audi voces supplicum qui te pie querunt,  
Mali causas removens que nos invenerunt.

Ps. 3. Domine, quid multiplicati sunt qui tribulant

**A**VE, virgo, speculum sancti celibatus,  
Cujus est ex utero puer nobis natus,  
Qui, compassus mortuo morte soporatus,  
Morte mortem terminat, expiat reatus.

Ps. 4. Cum invocarem exaudivit me deus justicie

**A**VE, nati filia, parens genitoris,  
Preter morem generans consueti moris,  
Nos ad statum revoca vite melioris  
Quos tam diu tenuit vanitas erroris.

Ps. 5. Verba mea auribus percipe, domine; intellige clamorem

**A**VE, que, nos redimens ab Egypti luto,  
Subvenire satagis vitiis imbuto,  
Tu nos, bone protegens voluntatis scuto,  
Coronatos gloria colloces in tuto.

Ps. 6. Domine ne in furore tuo arguas me; neque in

**A**VE, Vite janua, salus penitentis,  
Respice miserias anime languentis;  
Ne in ira sentiam voces arguentis,  
Me peccatis exime simul et tormentis.

## 和訳

詩篇1 悪しき者の謀に歩まぬ者は幸いな者  
めでたし、おとめの中のおとめ、比類無き親  
男の精なくして身籠るに相応しき方  
我らを繰り返し主の法へ立ち戻らせたまえ  
そして王国の中で栄光が祝福されんことを。

詩篇2 なぜ国々は騒ぎ立ち、諸国の民は沈思するのか  
めでたし、貴女の内奥が御子を生んだ  
貴女の民は衰亡に向かって騒ぎ立つ  
請願の声々を聞きたまえ、彼らは貴女へ心から乞う  
我らに到来する悪の原因を取り除く方よ。

詩篇3 主よ、苦しめる者のなんと多いことか  
めでたし、おとめ、聖人の姿見たる独身者  
我らのためにその胎より御子がお生まれになった  
かの御子が、死に至る苦しみを受けて眠りに入り  
死によって死を終わらせ、罪を償ってくださった。

詩篇4 わが義の神よ、呼びかけに答えてください  
めでたし、生まれし方の娘、生みし方の親  
常なる性向を持ちながら性向を超えて生み出す方  
我らを甘美な生の境地へと連れてゆく方  
かくも長く誤りの虚無が捕らえし我らを。

詩篇5 私の言葉に耳を傾けてください、主よ  
私の叫びを聞き分けてください  
めでたし、エジプトの泥から我らを贖いし方  
貴女は汚れて悪徳にまみれた者どもへ手を差しのべてくださる  
貴女は我らを、善き意志の盾で守り  
栄光で飾られた我らを安全な場所へ置いてくださる。

詩篇6 主よ、怒りに燃えて私を責めないでください  
めでたし、いのちの門、悔い改める者の救い  
弱り果てた靈魂の悲惨を顧みたまえ  
怒りに燃える声を私が聞くことのないように  
私を罪から、同時に苦しみから解放したまえ。

## p. 4 原文

Ps. 7. Domine deus meus in te speravi; salvum me fac

**A**VE, mater unica, causa nostre spei,  
Tuis queso meritis fac miserta mei,  
Ut ab enigmatibus hujus speciei  
Plena plene perfruar visione dei.

Ps. 8. Domine dominus noster; quam admirabile est nomen

**A**VE, virgo regina, summa gaudiorum,  
Per quam rex mirabilis, dominus cunctorum,  
Revocat inmeritos in spem filiorum,  
Quos proscripsit multiplex causa vitiorum.

Ps. 9. Confitebor tibi, domine, in toto corde meo; narrabo

**A**VE, thronus gratie, mater Jhesu Christi,  
Que sola concipere virgo meruisti,  
Confitebor domino quem sic genuisti  
Quod nec mater virginis nomen amisisti.

Ps. 10. In domino confido; quomodo dicitis anime

**A**VE, virgo virginum, per quam transmigratur  
Super unum montium in quo victimatur  
Vepre tentus aries, unde redimatur  
Prodigus qui rediens veniam precatur.

Ps. 11. Salvum me fac, domine, quoniam defecit sanctus;

**A**VE, mater domini, mater inquam ave,  
fac ut Christi bajulem jugum persuave,  
Quo beatitudinis particeps octave  
Liberari merear prime matris a ve.

Ps. 12. Usque quo, domine, oblivisceris me in finem?

**A**VE, virgo nomine matris insignita,  
Gratiarum fertili dote premunita,  
Purga mentis aciem quos it expedita,  
Ne unquam obdormiat in morte sopita.

## 和訳

詩篇7 わが神、主よ、私は貴方を信頼する  
私を救ってください

めでたし、唯一の母、我らの希望の源  
その功德ゆえに貴女が私に慈悲をかけてくださるように  
この光景の謎から解き放たれ  
完全なる見神によって私は完全に満たされるだろう。

詩篇8 主よ、私たちの主よ、御名のいかに驚くべきことか  
めでたし、女王なるおとめ、喜びの頂  
貴女を通じて奇跡の王が、万物の主が  
価値なき子どもを子らの希望へと呼び戻す  
諸々の悪徳のさまざまな原因の手に墜ちた子どもを。

詩篇9 私は貴方に告白する、主よ  
心を尽くし、私は語ろう

めでたし、恩寵の玉座、イエス・キリストの母  
貴女だけがおとめと呼ばれるに相応しい  
私は主に告白する、貴女が生んだ方へと  
貴女が母となりておとめの名を失わなかったことを。

詩篇10 私は主を信頼する、なぜ貴方は魂に言うのか  
めでたし、おとめの中のおとめ、貴女を通して移りきて  
山々の一つの上で犠牲となって捧げられし  
贖いのために荊の茂みに捕らえられし雄羊  
惜しみのないその方が和解して赦しを願ってくださった。

詩篇11 救ってください、主よ、聖なる者が消えるのだから  
めでたし、主の母、めでたしと私の言う母  
キリストのように私にくびきを快く背負わせたまえ  
その方によって八日目の至福に与る者となり  
最初の母の側にいた私は不幸から解放される。

詩篇12 いつまでですか、主よ  
私をどこしえにお忘れになるのですか

めでたし、母の名で印されしおとめ  
諸々の恵みの豊かな賜物で守られし方  
貴女は心の目を浄め、そうしてひとは解放される  
その者は死の静寂の中で眠りに落ちることもない。



## p. 5 原文

Ps. 13. Dixit insipiens in corde suo; non est deus.

**A**VE, templum gratie, templum sanctitatis,  
Templum sancti spiritus, thronus majestatis,  
Salva me per gratiam, salva, queso, gratis,  
Ut sortiri valeam regnum cum beatis.

Ps. 14. Domine, quis habitabit in tabernaculo tuo?

**A**VE, tabernaculum regis manu fortis,  
Per quam Christus, particeps factus nostre sortis,  
Fractis seris vectibus et inferni portis,  
Nos a morte revocat triumphator mortis.

Ps. 15. Conserva me, domine, quoniam speravi in te;

**A**VE, thronus gratie regi preparatus,  
Ex qua nobis prodiit felix advocatus,  
Nosra sit hereditas Christus ex te natus,  
Conservetque servulos condonans reatus.

Ps. 16. Exaudi, domine, justiciam meam; intende

**A**VE, solis civitas, in quam introivit  
Rex regum et dominus qui te concupivit,  
Per te nos exaudiat sibi quos univit,  
Suo vultu sacians quibus esurivit.

Ps. 17. Diligam te, domine fortitudo mea; dominus

**A**VE, virgo virginum, de qua mediator  
Ad nos venit, hostium verus triumphator,  
Hostes nostros convertat fortis expugnator  
Et fiat per gratiam glorie collator.

Ps. 18. Celi enarrant gloriam dei; et opera manuum

**A**VE, solis regina, de qua verus exit  
Veri solis radius, fraudes qui detexit  
Hostis et versucias quibus nos illexit,  
Ovem querens perditam gregi quam revexit.

## 和訳

詩篇13 愚か者は心の中で言う、「神などいない」と  
めでたし、恩寵の神殿、聖性の神殿  
聖霊の神殿、威光の玉座  
恩寵を通じて私を救いたまえ、恩寵による救いを私は求め  
至福者たちと共に王国を共有できるようになるために。

詩篇14 主よ、誰が貴方の幕屋にとどまるのか  
めでたし、強き王の御手で護られし幕屋  
貴女を通じてキリストは我らと運命を共にする者となられた  
地獄の門の壊れたかんぬきを貴女が閉ざし  
死の勝利者が死より我らを呼び戻す。

詩篇15 私を護ってください、主よ、貴方を信頼するゆえに  
めでたし、王のために備えられし恩寵の玉座  
その恩寵から幸福が招かれ我らの前に現れた  
貴女から生まれたキリストは我らの遺産  
そして彼は罪を赦して奴隷たちを護ってくださる。

詩篇16 聞き届けてください、主よ、私の正義を  
心に向けてください  
めでたし、太陽の都、其処へとその方は入ってきた  
王の中の王にして主、その方が貴女を望まれた  
貴方を通じて貴方と一つになった方が我らの声を聞き届け  
我らのために飢えていた方が貴方の御顔で満たされる。

詩篇17 私は貴方を愛す、主よ、わが力よ  
めでたし、おとめの中のおとめ、おとめより出でし仲介者  
我らのもとへ来たる、敵たちの真なる勝利者  
我らの敵たちを改心する強き克服者  
そして栄光の恩寵を通じ、貴女は運び手となる。

詩篇18 天は神の栄光を語る、大空は御手の業を  
めでたし、太陽の女王、女王より真実が出ずる  
真なる太陽の光、暴きし方が盗む  
我らを誘惑する敵たちや狡猾な者たちを  
滅びた群れが還ってきて、求めていた私は歓喜する。

## p. 6 原文

Ps. 19. Exaudiat te dominus in die tribulationis

**A**VE, plena gratie, speciosa tota,  
Virgo prudens, humilis, sine sordis nota,  
Nostrum sacrificium suscipe devota,  
Mores nostros ordinans affectus et vota.

Ps. 20. Domine, in virtute tua letabitur rex; et super

**A**VE, salus hominum, digna salutari,  
Salutare pariens sola carens pari,  
Nostra spes et gloria sit in salutari,  
Cujus participio credimus beari.

Ps. 21. Deus deus meus, respice in me; quare me

**A**VE, cujus uterus vermem procreavit  
Qui submordens ederam ione desiccavit,  
Dum quod legis littera clausum conservavit,  
In apertum proferens nobis propalavit.

Ps. 22. Dominus regit me, et nichil michi deerit;

**A**VE, Jesse virgula, gratiarum donis  
Habundanter predata, tu correctionis  
Virga sis et baculus consolationis,  
Quo nos Christus pascuis collocet in bonis.

Ps. 23. Domini est terra et plenitudo ejus.

**A**VE, terra glorie, terra non arrata,  
Rore tamen gratie plene fecundata,  
Fructum ferens cujus est gustu recreata  
Proles Ade veteris diu captivata.

Ps. 24. Ad te, domine, levavi animam meam

**A**VE, cujus gloriam boant universi,  
Per quam sursum redeunt in profundum versi,  
Per te fiat, domina, ne semel conversi  
Redeant ad vomitum sibimet adversi.

## 和訳

詩篇19 苦難の日に、主があなたに答えてくださる

めでたし、恩寵の充溢、全き美  
賢きおとめ、謙譲なる、汚れなきおとめ  
我らの捧げし犠牲を受け取りたまえ  
我らの性向を愛情と誓願へと秩序づけるために。

詩篇20 主よ、王は貴方の力の内に死す

めでたし、人々の救い、救われるに値する方  
唯一人、救世主を生みし比類無き方  
我らの希望と栄光は救い主にある  
かの救い主に与り祝福されることを我らは信ずる。

詩篇21 神、わが神、私を顧みてください

めでたし、貴女の胎は小さな虫を産んだ  
密かに刺して私が産んだその者はヨナに飢えていた  
律法の文字が門を閉ざし続けている間に  
その方が外へと連れ出して我らに暴いてくださった。

詩篇22 主は私を支配する、私は乏しいことがない

めでたし、エッサイの小枝、恩寵の賜物によって  
豊かに与えられた貴女は、助けの杖  
そして慰めの杖である  
その杖でキリストは我らを善の牧場に置いてくださった。

詩篇23 地とそこに満ちるものは主のもの

めでたし、栄光の地、地は耕地に非ず  
だが恩寵のしずくが豊かに満ちていて  
その果実を取って食べると力が満ちた  
古の神の子らは長くそこに留まっていた。

詩篇24 主よ、私の魂は貴方を仰ぎ見る

めでたし、全地が貴女の恩寵を呼び求める  
その恩寵を通じて彼らは深淵へと上向きに回帰する  
貴女を通じて、女主人よ、彼らは一度ならず転回する  
吐き出されたものへと己に逆らい彼らは向かう。

## p. 7 原文

Ps. 25. Judica me, domine, quoniam ego in innocentia

**A**VE, mater populi, prospice defectum,  
Et, maternum filiis exhibens affectum,  
Mores nostros ordina tollens imperfectum,  
Ut pes noster tendere queat in directum.

Ps. 26. Dominus illuminatio mea; et salus mea

**A**VE, mater domini suos protegentis,  
Qui catervas hostium fregit in trecentis,  
Queso nos respicias oculis attentis,  
Procul pellens tenebras erumpnose mentis.

Ps. 27. Ad te, domine, clamabo; deus meus

**A**VE, virgo, domini mater illibata,  
Cujus est ex utero caro deo data,  
Caro carnem liberans, caro morti nata,  
Caro que refluoruit morte triumphata.

Ps. 28. Afferte domino filii dei; afferte domino

**A**VE, per quam filius fratres adoptavit,  
Quos et dei filios recte nominavit,  
Eant ergo filii quos ad se vocavit,  
Agnos innocentie ferant quos mandavit.

Ps. 29. Exaltabo te, domine, quoniam suscepisti me

**A**VE, tabernaculum Christo dedicatum,  
Supra matres obtinens sola principatum,  
Nostris aptans usibus saccum veteratum  
Propter nostra vulnera gratis vulneratum.

Ps. 30. In te, domine, speravi, non confundar

**A**VE, nostrum gaudium, nostra fortitudo,  
Cujus est dulcedinis magna multitudo,  
In te nostra sita sit spei certitudo  
Cujus piis laudibus libere desudo.

## 和訳

詩篇25 私を裁いてください、主よ

私は穢れなき道を歩いてきたのだから  
めでたし、民衆の母、弱者を見つめたまえ  
そして母たちの子らに愛情を示したまえ  
不完全を容赦し我らの性向を導きたまえ  
我らの足がまっすぐに向かうことができるように。

詩篇26 主はわが輝き、わが救い

めでたし、自らにつく者たちを護る主の母  
かの主は300の数で敵たちの一団を打ち砕く  
私は乞う、貴女が我らを注意深き眼で顧みてくださるよう  
貴女は遠くから苦痛に満ちた心の暗闇を払ってくださる。

詩篇27 主よ、私は貴方へ叫びます、わが神

めでたし、おとめ、主の瑕なき母  
貴女の胎から神に肉体が与えられた  
死すべき肉体として生まれた肉体が肉体を解放し  
死によって再び開花した肉体が勝利した。

詩篇28 主に帰せよ、神の子らよ、主に帰せよ

めでたし、貴女を通じて御子は兄弟たちを選ばれた  
彼らと神の子らを正しい名で呼ばわってくださった  
ゆえに主がお呼びになった子らは進み  
主が命じられた彼らが無垢の子羊たちを運ぶ。

詩篇29 私は貴方を崇めます、主よ

貴方は私をすくい上げてくださったから  
めでたし、キリストに捧げられし幕屋  
母たちを超えて貴女だけが権能を所有する  
貴女は古い袋を我らの使用に適うようにしてくださる  
我らの傷のために傷ついた者へ恵みを与えてくださる。

詩篇30 主よ、私は貴方を信頼し、惑わされません

めでたし、我らの喜び、我ら力  
貴女の甘美さの大きさを、計り知れず  
貴女の内に我らの見出した確かな希望がある  
貴女の敬虔によって私は自由に讃美を語り出す。



## p. 8 原文

Ps. 31. Beati quorum remisse sunt iniquitates;

**A**VE, cujus utero deus est deorum  
Factus homo, tollere spinas delictorum,  
O beatus uterus, et beati quorum  
Fecit se participem factor seculorum.

Ps. 32. Exultate justi in domino; rectos decet

**A**VE, per quam dominus revocat ejectum  
Quem a solo patrio peregre profectum,  
Medicus dum repperit viciis infectum,  
Morbi causas abstulit simul et effectum.

Ps. 33. Benedicam dominum in omni tempore;

**A**VE, mater pariens fructum benedictum,  
Tactu cujus solvitur Eve maledictum,  
Que transgressa temere, tangens interdictum,  
Transtulit in posteros ultionis ictum.

Ps. 34. Judica me, domine, nocentes me; expugna

**A**VE, per quam dominus apprehendens scutum  
In extremo brachio propulit astutum,  
Qui de sputo proprio commiscendo lutum  
Ceco lumen homini reddidit acutum.

Ps. 35. Dixit injustus ut delinquat in semet ipso;

**A**VE, templum gratie, thronus deitatis,  
Torrens affluentie, domus ubertatis,  
Per te solam reddita spes est desperatis,  
Fluctuantis anchoram rege nostre ratis.

Ps. 36. Noli emulari in malignantibus; neque

**A**VE, carens simili, nusquam malignata,  
Dignitatis titulo triplicis ornata,  
Virgo mater diceris, junge separata,  
Es utrumque, docet hoc fides oculata.

## 和訳

詩篇31 その不正を容赦される人々は幸いな者

めでたし、貴女の胎より神々の神がお生まれになった  
人となりし方よ、過ちの棘を引き抜きたまえ  
おお、至福なる胎、至福なる者たち  
彼らの世をつくりし方が自らを分け与えてくださった。

詩篇32 義人よ、主によって喜び歌え

その方は正しき者たちにこそふさわしい  
めでたし、貴女を通じて主は投げ出された者を呼び戻す  
唯一の故郷から遠く離れた地に進んだかの者たちを  
医者というのは悪徳によって汚された者を見つけ出した時  
疾患の原因を、同時にその影響をも、取り除くのだ。

詩篇33 私はどのような時も主を讃えよう

めでたし、祝福を享受する方を生みし母  
貴女が触れることでエヴァの呪いが消え去る  
意図せず交わって、禁忌に触れて、  
報復の打撃を後継者たちへもたらしたエヴァの呪いが。

詩篇34 私を裁いてください、主よ、

私を害する者たちを打ち倒してください  
めでたし、貴女を通じて主は盾を握り  
ついには狡猾な者どもを一掃した  
その者どもが己の唾で汚れを混ぜて  
光を失った人に、貴方は鋭敏さを戻してくださった。

詩篇35 不義なる者が言った、自分自身に背くために

めでたし、恩寵の神殿、神性の玉座  
充溢の奔流、豊穡の家  
貴女だけを通じて絶望から希望が還ってくる  
揺れる私たちの小舟の錨を支配したまえ。

詩篇36 悪をなす者どもと競ってはいけない

めでたし、似ているところのない者、決して悪をなさぬ者  
相応しき三重の称号で飾られし方  
おとめである貴女が母と言われ、離れたものを結びつける  
貴女はどちらでもあり、これを目に見える信仰が教える。

## p. 9 原文

Ps. 37. Domine ne in furore tuo arguas me; neque

**A**VE, sancti spiritus fecundata rore,  
 Conservato pariens castitatis flore,  
 Queso fac ne arguat iudex in furore  
 Quos a morte proprio redemit cruore.

Ps. 38. Dixi custodiam vias meas; ut non delinquam

**A**VE, cujus filio psalmus decantatur,  
 Habitus proditum in quo figuratur,  
 Qui terrena transiens in hoc delectatur  
 Si vel mentis gressibus caput consequatur.

Ps. 39. Expectans expectavi dominum; et intendit

**A**VE, tabernaculum regis impollutum,  
 Per quam solvit dominus ope destitutum,  
 Tuis juva meritis sponte provolutum  
 In lacum miserie et in fecis lutum.

Ps. 40. Beatus qui intelligit super egenum et pauperem:

**A**VE, solis civitas quam David erexit,  
 De quo sol justicie nube tectus exit,  
 Qui de summis pauperum causas intellexit,  
 Et egrotis similis egros non despexit.

Ps. 41. Quem admodum desiderat cervus ad fontes

**A**VE, de qua prodeunt ubertatis rivi,  
 De qua manans profluit aqua fontis vivi,  
 Peto mater veniam qui per sordes ivi,  
 Fac ut fontem sitiam magis quam sitivi.

Ps. 42. Judica me, deus, et discerne causam meam

**A**VE, cujus thalamo iudex est egressus,  
 Causas qui determinat iudicans excessus,  
 Per quem mentis oculus, viciis oppressus,  
 Discat ut in lumine suos ponat gressus.

## 和訳

詩篇37 主よ、私を怒り咎めないでください

めでたし、充溢する聖霊のしずくよ  
 護りたまえ、貞潔の花より生まれる方よ  
 私は乞う、審判者が怒り咎めないようにしてくださるのを  
 己の死によって血で贖った者たちを。

詩篇38 私は言った、私の道を守ろう

過ちを犯さないように  
 めでたし、貴女の御子によって讚美は歌われる  
 エドトンのための調べの内での御子は形づくられる  
 その方は地上的なものを超えてこの世で愛される  
 心の航路さえもその方が船頭となられるのであればこそ。

詩篇39 私は耐えて主に望みを置いた

すると主は目を向けてくださった  
 めでたし、汚れなき王の幕屋  
 貴女による力で主は裏切った者を救われた  
 自ら出ていった者を貴女の功德によって助けたまえ  
 悲惨の湖と沈殿した泥の中へと向かっていった者を。

詩篇40 困窮した人、貧しき人を理解する人は幸いな者

めでたし、太陽の都、ダビデが貴女を建てられた  
 覆われていた正義の太陽がその都より出でて  
 かの太陽は頂より貧者たちの原因を理解していた  
 私も同じく病にあえぎ、しかしその方は見捨てなかった。

詩篇41 鹿が激しく泉を求めるように

めでたし、貴女から豊かな水の流れが生まれる  
 貴女からいのちの泉の水は流れ出す  
 母よ、汚辱を通過して進んできた私は慈悲を乞う  
 渴いていた時よりさらに泉を渴望させたまえ。

詩篇42 私を裁いてください、神よ

そして私のために原因を取り除いてください  
 めでたし、貴女の寝室より審判者は出ていった  
 その方は境界を画定し、逸脱の原因を審判する  
 その方によって心の目が、諸々の悪徳から覆われる  
 その方は教える、「光の内を歩むように」と。

p. 10 原文

Ps. 43. Deus auribus nostris audivimus; patres

**A**VE, cujus filius provehit egentes,  
Et affligit improbos in nos insurgentes,  
Pie queso dirigat nostras in se mentes,  
Reprimendo turbinum motus imminentes.

Ps. 44. Eruetavit cor meum verbum bonum; dico ego

**A**VE, per quam genitor verbum eructavit,  
Verbum quod hominibus se contemperavit,  
Qui dei et hominum federa dictavit,  
Et pro nobis moriens mortem relegavit.

Ps. 45. Deus noster refugium et virtus; adjutor in tribul<sup>2</sup>

**A**VE, tabernaculum domini virtutum,  
In quo sumens dominus nostre carnis lutum,  
Ut captivum redimat ope destitutum,  
Arcum fortis conterit et comburit scutum.

Ps. 46. Omnes gentes plaudite manibus; jubilate

**A**VE, cujus filius regnat super gentes,  
Cujus psallunt nomini manibus plaudentes;  
Jubilemus igitur attollendo mentes  
Indefesse capiti Christo choerentes.

Ps. 47. Magnus dominus et laudabilis nimis;

**A**VE, virgo generans regem sempiternum,  
Quique deus noster est, deus in eternum,  
Qui pro nobis moriens spoliat Avernum,  
Solum nos faciens scandere supernum.

Ps. 48. Audite hec omnes gentes; auribus percipite

**A**VE, nostrum gaudium, nostre spes salutis,  
Per quam cecis redditur lux et sermo mutis,  
Nobis, innocentie vestibibus exutis,  
Redde, queso, gratiam statumque virtutis.

和訳

詩篇43 神よ、この耳で私たちは聞きました

めでたし、貴女の御子が乏しい者たちを導いてくださり  
我らに蜂起する邪悪な者どもを打ちのめしてくださる  
私は真摯に乞う、貴女が我らの心を貴女へと向けるよう  
迫り来る竜巻の動きを抑えてくださることで。

詩篇44 その方は私の心に善き言葉を放たれた、私は言う

めでたし、貴女を通じて創造者が言葉を放たれた  
その言葉は、自身を人間たちに適合させ  
神と人間たちの絆を記された  
そして我らのために死に、死を追放してくださった。

詩篇45 神は私たちの逃れ場、私たちの力、苦難の時の助け

めでたし、主の優れた幕屋  
其処で主は我らの肉の粘土を手にとられた  
貧窮した囚人を力によって贖うために  
強者の弓を粉碎し、盾を燃やしてくださった。

詩篇46 すべての民よ、手を打ち鳴らせ

歓呼の叫びを上げよ

めでたし、貴女の御子は民の上に支配を置く  
彼らはその方の名を誉め歌い、手を打ち鳴らす  
それゆえ我らは高揚し歓呼の声を上げる  
頭であるキリストに結ばれた倦むことなき我らが。

詩篇47 主は大いなる方、大いに讃美される方

めでたし、常の王を生みしおとめ  
かの王は我らの神、永遠の神である方  
その方は我らのために死んで黄泉を奪い  
天国の椅子を作り、我らを引き上げてくださる。

詩篇48 すべての民よ、これを聞け、耳を傾けよ

めでたし、我らの喜び、我らの救いの希望  
貴女を通じて光が盲人たちに戻り、言葉が啞たちに戻る  
無垢の衣が剥ぎ取られた我らへ  
還したまえ、私は恩寵と健常を乞う。

<sup>2</sup> 余白の関係でtribulationibusが途切れている。



## p. 11 原文

Ps. 49. Deus deorum dominus locutus est; et

**A**VE, salutarium summa gaudiorum,  
 Salvatorem generans et deum deorum,  
 Qui, misertus miseris et consors eorum,  
 Culpas lavans pertulit penas peccatorum.

Ps. 50. Miserere mei deus; secundum magnam

**A**VE, virgo, generis nostri miserere,  
 Languescentis animi morbos intueri,  
 Tu, miserta miseris et compassa vere,  
 Morbi causas auferens mentibus medere.

Ps. 51. Quid gloriaris in malicia; qui potens

**A**VE, vas mundicie continens unguentum  
 Veteris malicie comprimens fermentum,  
 Cordis nostri comprime motum turbulentum  
 Tue nobis gratie conferens augmentum.

Ps. 52. Dixit insipiens in corde suo; non est deus

**A**VE, nostri generis presens ad tutelam,  
 Audi quam ostendimus gemitus loquelam,  
 Tu, corrumpi nescia, tolle corruptelam,  
 Et morbois mentibus adhibe medelam.

Ps. 53. Deus in nomine tuo salvum me fac;

**A**VE, cujus filius patri coequalis  
 Nobis se contemperans factus est mortalis,  
 Nos experientia doceat realis  
 Quod in ejus nomine salvemur a malis.

Ps. 54. Exaudi deus orationem meam et ne

**A**VE, secretarium exauditionis,  
 Nostre verba suscipe deprecationis,  
 Nosque tue gratie perdotatos donis  
 Ad divine transferas pacem visionis.

## 和訳

詩篇49 神々の神、主は語りかける

めでたし、救済の喜びの頂  
 救世主にして神々の神を生みし方  
 かの救世主は、悲惨な者たちを憐れみ、彼らと分かち合い  
 責を洗い流し罪の罰を終わらせてくださった。

詩篇50 神よ、私を憐れみたまえ

めでたし、おとめ、我らの兄弟を憐れみたまえ  
 病に冒されている者の靈魂の病魔に目を向けたまえ  
 貴女よ、悲惨な者たちを憐れみ、真実苦しんでください  
 病の原因を取り除き癒したまえ。

詩篇51 力ある者よ、なぜ悪事を誇るのか

めでたし、清浄の香油を閉じ込めた器  
 貴女は古き悪徳である激怒を抑制する方  
 我らの心の奔流を鎮めたまえ  
 貴女の恩寵の増大を我らにもたらしてください。

詩篇52 愚か者は心の中で言った、「神などいない」と

めでたし、我らの民の守護のために現前される方  
 我らが差し出す叫びの声を聞きたまえ  
 贈賄とは無縁な方である貴女よ、買収を防ぎたまえ  
 そして病める者たちへ癒しを与えたまえ。

詩篇53 神よ、貴方の名において私を救ってください

めでたし、貴女の御子は父と等しき方  
 我らに自身を適合させ死すべき者となられた方  
 その方が我らに実在の経験を教えてくださる  
 貴方の名において我らは悪から救われるのだから。

詩篇54 神よ、私の祈りを聞き届けてください

めでたし、祈りの応えを司る方  
 我らの哀願の言葉を聞き入れたまえ  
 そして貴女は、貴女の恩寵を豊かに賜る我らを  
 神の視る平和へと連れていってくださる方。

p. 12 原文

Ps. 55. Miserere mei deus quoniam conculcavit

**A**VE, mater venie potens misereri,  
In tuorum numero fac nos recenseri,  
Et, cum ventilatio ceperit haberi,  
Iram nobis tempera iudicis severi.

Ps. 56. Miserere mei, deus, miserere mei;

**A**VE, nostri generis potens advocata,  
Miserere miseris misereri nata,  
Nos qui per te cavimus solvi iudicata,  
Per te solvi petimus, solve postulata.

Ps. 57. Si vere utique iusticiam loquimini;

**A**VE, que iusticiam semper es locuta,  
Cujus ope demonum fraus est imminuta,  
Sentiat et sapiat per te plebs adjuta  
Libertati pristinae qua sit restituta.

Ps. 58. Eripe me de inimicis meis, deus meus;

**A**VE, mater nesciens in delicto thorum,  
Ad quam clamat jugiter turba filiorum,  
Nos a malis eripe quos a via morum  
Detorquere satagit tractus vitiorum.

Ps. 59. Deus, repulisti nos et destruxisti nos;

**A**VE, per quam deitas carne palliata  
Ydumeam visitat corrigens errata,  
Tibi, mater, jugiter psallat plebs renata  
Dei participio per te sociata.

Ps. 60. Exaudi, deus, deprecationem meam;

**A**VE, lux exposita loco permanenti,  
Lux illustrans omnia radio patenti,  
Nos a malis omnibus serves in presenti,  
Lumen verum conferens nebulae menti.

和訳

詩篇55 私を憐れんでください、神よ  
ひとが踏みにじったのです

めでたし、赦しの母、憐れむことのできる方  
貴女たちの数の中に私たちを数え入れたまえ  
そして大気の変化が始まった時には  
厳正なる審判者の我らに対する怒りを鎮めたまえ。

詩篇56 私を憐れんでください、神よ、私を憐れんでください

めでたし、我らの兄弟たちから呼び求められる方  
貴女は悲惨な生まれの憐れな者たちを憐れんでくださる  
貴女に裁かれることで救いの保証を得た我らは  
貴女に救われることを願う、願われし方よ、救いたまえ。

詩篇57 本当に義を語っているのであれば

めでたし、常に正義を語ってきた方  
貴女の力によって悪魔たちの謀りは滅せられた  
平民たちは貴女を通じて助けを感じ、味わうのだ  
かつての自由が貴女によって再建されて。

詩篇58 私を敵たちから助け出してください、わが神

めでたし、情事の過ちを知らぬ母  
貴女に向けて子らの一族はたえず叫ぶ  
我らを悪から、慣習の道から助け出したまえ  
悪徳に満ちた通り道より逃れさせたまえ。

詩篇59 神よ、貴方は私たちを拒み、私たちを打ち倒された

めでたし、貴女を通じて神性が肉を纏う  
貴女はイドゥメアに行きて誤りを正し  
貴女へと、母よ、生まれ変わった平民がたえず誉め歌う  
貴女を通じて神と結ばれた平民が。

詩篇60 聞き届けてください、神よ、私の叫びを

めでたし、とこしえの場で曝け出される光  
その光は露わにする光線で万物を照らし出す  
現前し我らをすべての悪より護りたまえ  
真実の光を心の曇りにもたらすことで。

## p. 13 原文

Ps. 61. Nonne deo subjecta erit anima mea?

**A**VE, per quam deitas peregre profecta  
 Visitavit exules nude carnis tecta,  
 Nostra deo per te sit anima subjecta,  
 Ad solvendas domino grates circumspecta.

Ps. 62. Deus deus meus; ad te de luce vigilo.

**A**VE, vite pabulum, virginum lucerna,  
 Quam plus ditat ceteris gratia superna,  
 Pietate filiis subveni materna  
 Sanctitatis adipe sacians interna.

Ps. 63. Exaudi, deus, orationem meam cum

**A**VE, virgo generans per quem defecerunt  
 Hii qui velut gladium linguas acuerunt,  
 Qui tendentes laqueos in quos inciderunt  
 Ex defectu proprio nobis profuerunt.

Ps. 64. Te decet ymnus, deus, in Syon; et

**A**VE, per quam deitas, carnis indumento  
 Tecta, curat morbidum gratie fomento,  
 Queso fac ut, centupli gaudens incremento,  
 Habundare valeam vallium frumento.

Ps. 65. Jubilate deo omnis terra; psalmum

**A**VE, virgo generans plebis salutare,  
 Cujus laudes resonant celum, terra, mare,  
 Qui, naturam hominis volens exaltare,  
 Moriendo voluit mortem terminare.

Ps. 66. Deus misereatur nostri et benedicat

**A**VE, per quam miseris deus miseretur,  
 Per quam nostri generis scelus adoletur,  
 Per te sic miseria nostra relevetur  
 Ut in finem gaudio vero permutetur.

## 和訳

詩篇61 私の魂が神に平伏さないだろうか。

めでたし、貴女を通じて神性は外へと向かい  
 旅路に在る人々を訪ね、裸の肉の覆いとなる  
 貴女を通じて我らの魂は神へとひれ伏す  
 主への感謝を開き示すために捜し求めたまえ。

詩篇62 神よ、貴方こそわが神

私は夜明けまで夜を徹して貴方に祈る。  
 めでたし、いのちの糧、おとめたちの灯火  
 天の恩寵が他の人々へさらに増し加わる  
 母なる敬虔よ、子らに來たれ  
 聖性の油によって内奥を満たすために。

詩篇63 聞き届けてください、神よ、私の祈りを

めでたし、彼らを渴望させた方を生みしおとめ  
 この者たちは剣のように舌を尖らせ  
 罠に突っ込みそこへと嵌った  
 彼らは己の欠点のために我らの役に立つのだ。

詩篇64 貴方には賛美が相応しい、シオンにいます神よ

めでたし、貴女を通じて神性は肉の衣で  
 覆われて、病者たちを恩寵の湿布で癒された  
 私は乞う、貴女が喜ぶ者の数を百倍に増やして下さるよう  
 私が谷々の穀物を増やすようにして下さるよう。

詩篇65 全地よ、神に向かって喜びの叫びを上げよ

めでたし、平民たちの救い主を生み出すおとめ  
 かの救い主への讚美は、天に、地に、海に響く  
 その方は人間の本性を迎え入れてくださり  
 死すべき者の死を終わらせてくださった。

詩篇66 神は私たちに憐れみ祝福して下さる

めでたし、貴女を通じて哀れな者たちを神が憐れんで下さる  
 貴女を通じて我らの民から邪悪な行いが取り除かれ、  
 我らの悲惨が解き放たれる  
 最後には真なる喜びに変えられるが如く。



## p. 14 原文

Ps. 67. Exurgat deus et dissipentur inimici

**A**VE, de qua natus est triumphator mortis,  
Deus ex te particeps factus nostre sortis,  
Qui, captivos eruens ab inferni portis,  
Reddit nos confortio celice cohortis.

Ps. 68. Salvum me fac, deus, quoniam intraverunt

**A**VE, stella fulgida, stella salutaris,  
Stella de qua prodiit radius solaris,  
Mentis pelle tenebras, nec nos paciaris  
Absorberi fluctibus procellosi maris.

Ps. 69. Deus in adjutorium meum intende;

**A**VE, vallis humilis, in quam cum descendit  
Deus verus Abrahe semen apprehendit,  
Et sic adjutorium miseris impendit  
Conterendo laqueos hostis quos tetendit.

Ps. 70 In te, domine, speravi, non confundar in eternum;

**A**VE, vite janua, specimen virtutis,  
Protectorem generans ope destitutis,  
Nostrum sis refugium, nostre spes salutis,  
Per quam dure solvitur jugum servitutis.

Ps. 71. Deus iudicium tuum regi da; et iusticiam

**A**VE, celi pluvia, vellus irroratum,  
Indumentum preparans regi preparatum,  
Qui, se nostri generis gerens advocatum,  
finem fecit litibus finem per beatum.

Ps. 71. Deus iudicium tuum regi da; et iusticiam<sup>3</sup>

**A**VE, cujus filio gens ab oriente  
Trina trino detulit stella precedente  
Sic, junctura fidei duos uniente,  
Liberavit pauperem deus a potente.

## 和訳

詩篇67 神は立ち上がり、敵たちは駆逐される

めでたし、貴女から死の勝利者がお生まれになった  
神は貴女より出でて我らと運命を共にする方になられた  
かの神は、地獄の門から囚人たちを引き上げて  
我らを天の宮の一員に戻してくださる。

詩篇68 私を救ってください、神よ、迫っているのだから

めでたし、輝ける星、救済の星  
その星からは太陽の光線が進み出る  
心の闇に触れたまえ、貴女は我らを苦しめることもない  
我らが海の荒波に飲み込まれていようとも。

詩篇69 神よ、私を助け出してください

めでたし、謙譲の谷、その谷へ  
真の神が降ってゆき、アブラハムの裔を掴む  
そして憐れな者たちへ助けを用いてくださる  
彼らが嵌った敵の罟を打ち砕くことで。

詩篇70 主よ、貴方のもとに私は逃れた

私がとこしえに混ざらないようにしてください  
めでたし、いのちの門、徳の鑑  
貴女はその力によって貧窮者たちの守護者を生み出し  
我らの隠れ家となり、我らの救いの希望となる  
貴女を通じて隷属のくびきは粉碎される。

詩篇71 神よ、公正を王に授けてください、そして正義を

めでたし、天の雨、羊毛は濡らされる  
貴女は王のために用意されし衣を用意する方  
かの王は、我らの民の中から召された者を身に纏い  
至福による終わりで口論を終わらせてくださる。

詩篇71 神よ、公正を王に授けてください、そして正義を

めでたし、貴女の御子について東方の民は  
三つの星、三人の先駆者によって告知知らせた  
かくして、貴女は信仰と結ばれて二つが一つとなり  
神は貧者を力ある者から解放して下さった。

<sup>3</sup> 詩篇第71篇は例外的に二つの連の冒頭句になっている（テゲルンゼー版も同様）。

## p. 15 原文

Ps. 72. Quam bonus Israel deus; hiis qui recto sunt

**A**VE, virgo generans orbis architectum,  
Qui, dum mortis moriens terminat effectum,  
Mentis nostre gressibus iter parat rectum,  
Ut nequaquam transeant cordis in affectum.

Ps. 73. Ut quid, deus, repulisti in finem?

**A**VE, cujus filius operans salutem,  
In terrarum medio monet ad virtutem,  
Erumpnosam remove, mater servitutem,  
Presens ut exilium gaudio permutem.

Ps. 74. Confitebimur tibi, deus, confitebimur;

**A**VE, cujus gratia veniam meretur  
Fidem qui catholicam pie confitetur,  
Tuis, virgo, meritis precibusque detur  
Ut quod Eva perdidit per te reformetur.

Ps. 75. Notus in Judea deus; in Israel magnum nomen ejus

**A**VE, per quam dominus pietate motus  
Humilis apparuit in Judea notus,  
Fortem redde spiritum frangens carnis motus  
Ut devote serviat tibi tote totus.

Ps. 76. Voce mea ad dominum clamavi;

**A**VE, mater gratie gemmis redimita,  
Mater per quam pauperum vox est exaudita,  
Tuus nobis filius in presenti vita  
Vita sit et veritas, in futuro vita.

Ps. 77. Attendite, popule meus, legem meam;

**A**VE, terra glorie, germinans frumentum  
Animabus conferens vite nutrimentum,  
Quod, in crucis cornibus a Judeis tentum,  
Moriendo centupli tulit incrementum.

## 和訳

詩篇72 神はなんと善なることか

イスラエル、この正しき者たちに

めでたし、地球を建てし方を生むおとめ  
その方は、死ぬことで死という結果を終わらせてくださり  
我らの心の歩みに正しき道を開いてくださる  
そのこころの歩みが決して情念へと向かわぬように。

詩篇73 神よ、なぜ最後まで捨て置くのですか。

めでたし、貴女の御子は救いの業を為し  
地上の中で徳についての警句を語る  
苦しき隷属の状態を、母よ、取り除きたまえ  
貴女が現れることで私が旅路を喜びに変えられるように。

詩篇74 貴方に感謝します、神よ、感謝します

めでたし、貴女の恩寵は赦しに足る  
普遍の信仰へと心から感謝する者は  
おとめよ、貴女の功德と祈りによって信仰が与えられる  
エヴァの壊したものが貴女によって修復されるために。

詩篇75 神はユダに知られ、

その名はイスラエルで偉大である

めでたし、貴女を通じて主は信心に突き動かされ  
ユダに知られた謙譲なる方が現れた  
肉の衝動を砕いて強き霊を取り戻したまえ  
全身全霊を以て信心深く貴女に仕えるために。

詩篇76 私の声よ、主に届け

めでたし、数々の宝石で飾られし恩寵の母  
貴女を通じて貧者の声が聞き届けられるところの母  
現世の我らにとって貴女の御子であられる方は  
来世におけるいのちであり、真理である。

詩篇77 私の教えに耳を傾けよ、わが民

めでたし、栄光の大地、貴女は果実を発芽させ  
靈魂たちにいのちの栄養をもたらす方  
その果実はユダヤの民によって十字架に磔にされたために  
死ぬことによって、百倍の実りをもたらしてくださった。

p. 16 原文

Ps. 78. Deus, venerunt gentes in hereditatem

**A**VE, de qua prodiit pater orphanorum,  
Cujus templum polluit turba prophanorum,  
Servos tuos socia sorti beatorum  
Filiosque posside morti punitorum.

Ps. 79. Qui regis Israel intende; qui deducis

**A**VE, lumen fidei, summa spei certe,  
Caritatis vinculum, veritatis per te  
Via nobis patuit, queso nos converte  
Et ne mala videant oculos averte.

Ps. 80. Exultate deo adjutori nostro;

**A**VE, cujus filius dextera potenti  
Ab Egypti cophino suos in presenti  
Liberando reficit adipe frumenti,  
Et de petra saciat melle profluenti.

Ps. 81. Deus stetit in synagoga deorum;

**A**VE, cujus filius stetit in deorum  
Synagoga judicans principes eorum,  
Qui pupillos refovens spes est egenorum;  
Hos adoptans erigit in spem filiorum.

Ps. 82. Deus quis similis erit tibi; ne taceas

**A**VE, per quam nobis est similis effectus  
Deus judex omnium patiens et rectus,  
Purga conscientias ordinans affectus,  
Ut non nobis noceat noster imperfectus.

Ps. 83. Quam dilecta tabernacula tua

**A**VE, tabernaculum facta deitatis,  
In quo salvat seculum Christus a peccatis,  
Solve queso vinculum nostre pravitatis,  
Prestans habitaculum nove claritatis.

和訳

詩篇78 神よ、諸国民が貴方の相続地に入っていった  
めでたし、貴女から孤児たちの父が現れ出た  
かの父の神殿を世俗の者どもの騒乱が汚す  
貴女の僕たちを至福者たちの運命の同志にさせたまえ  
そして子らを断罪者たちの死から引き取りたまえ。

詩篇79 イスラエルの王である方よ、導かれる方よ  
耳を傾けてください

めでたし、信仰の光、確かな希望の頂  
愛徳の綱、貴女を通じて真理の道が  
我らに開かれた、私は乞う、我らを悔悛させたまえ  
そして悪を視ぬよう我らの目を逸らしたまえ。

詩篇80 我らの助けである神に喜び歌え

めでたし、貴女の御子は権能者の右手  
エジプトの籠からそこにいた自らの者たちを  
解放することで穀物の油によって甦らせ  
石から流れる蜜によって満足させてくださる。

詩篇81 神よ、貴方は神々の集いの中に立つ

めでたし、貴女の御子は神々の中に立ち  
彼らの長を裁く  
その方は孤児たちを励ます貧窮者たちの希望  
その方は孤児たちを養子にして子らの希望に選ばれる。

詩篇82 神よ、誰が貴方と似た者になるでしょう  
沈黙しないでください

めでたし、貴女を通じて我らと似た者になってくださった  
その神は、辛抱強く、正しく、万物を裁かれる方  
情意を秩序づけ、意識を清めたまえ  
我らの不完全さが自覚されぬことのなきように。

詩篇83 貴方の幕屋はなんと慕わしいことでしょう

めでたし、神性によって造られし幕屋  
その幕屋においてキリストが世を罪から救われる  
救いたまえ、私は乞う、我らの不正が縛られることを  
貴女が新しき明瞭なる住まいを与えてくださることで。



## p. 17 原文

Ps. 84. Benedixisti, domine, terram tuam

**A**VE, terra gratie fecundata donis,  
Nove fructum proferens benedictionis,  
Nostrum desiderium sacien in bonis,  
Nos a malis eximens prave nationis.

Ps. 85. Inclina aurem tuam, domine, et

**A**VE, vite speculum, virginum regina,  
Quam lustravit undique gratia divina,  
Aurem tuam pauperum precibus inclina,  
Quos involvit misere sordium sentina.

Ps. 86. Fundamenta ejus in montibus sanctis;

**A**VE, dei civitas, cujus fundamentum  
Samarites construit, qui nos in jumentum  
Semivivos revehens plagis dat unguentum,  
Vino legis adhibens gratie fomentum.

Ps. 87. Domine, deus salutis mee; in die

**A**VE, mater domini qui spes est salutis,  
Qui contrivit moriens jugum servitutis,  
Juva nos in tempore nostre senectutis,  
Nos in celum sublevans gradibus virtutis.

Ps. 88. Misericordias domini in eternum cantabo.

**A**VE, nostri generis terminans lamentum,  
Per quam rex disposuit vite testamentum,  
Gregem tuis laudibus jugiter intentum  
Non pavere facias judicis adventum.

Ps. 89. Domine, refugium factus es nobis;

**A**VE, que, refugium facta desperatis,  
Procellose comprimis motus tempestatis,  
Paca nos et applica portibus optatis,  
Vultui nos offerens summe trinitatis.

## 和訳

詩篇84 主よ、貴方はご自分の地に恵みを示された  
めでたし、賜物が豊かに与えられし恩寵の地  
貴女は新しき祝福の実りをもたらし  
我らの願いを善で満たしてくださる  
我らを過ちの集団の悪より解放することで。

詩篇85 貴方の耳を傾けてください、主よ  
めでたし、いのちの鑑、おとめたちの女王  
貴女を余すところなく神の恩寵が照らされた  
貴女の耳を貧者たちの祈りに傾けたまえ  
悲惨な汚れの底へ突き進む者どもの祈りに。

詩篇86 その方が築いた礎は山々の頂に  
めでたし、神の都、その礎を  
サマリア人が築く、彼らは役畜の背に  
疫病で半死半生の我らに乗せて、塗油を施す  
律法のワインで作りし恩寵の湿布を当てることで。

詩篇87 主よ、わが救いの神よ  
めでたし、救いの希望である主の母  
かの主は死という隷属のくびきを消してくださった  
老いの時代に在る我らを助けたまえ  
徳の階梯により我らを天へと上昇させることで。

詩篇88 私は主の慈しみをとこしえに歌う。  
めでたし、我らの民の嘆きを終わらせてくださる方  
貴女を通じて王はいのちの契約を分け与えてくださった  
たえず貴方の讚美に向かう群れが  
裁きの到来に怯えることのなきようにしたまえ。

詩篇89 主よ、貴方は我らの逃れ場となってくださった  
めでたし、絶望する者たちの逃れ場となってくださる方  
荒れ狂う嵐の動きに翻弄され絶望する者たちの  
我らに平安を与え、切望されし港へと送り届けたまえ  
至高の三位一体の御顔の前に我らを立たせたまえ。

p. 18 原文

Ps. 90. Qui habitat in adjutorio altissimi;

**A**VE, quam inhabitat verbum caro factum,  
Qui, collapsos vetiti ligni per attactum  
Nos fecisse condolens cum inferno pactum,  
Ligno vite reparat figuli vas fractum.

Ps. 91. Bonum est confiteri domino; et psallere

**A**VE, per quam domino pie confitemur,  
Cujus ope veniam consequi meremur,  
Tuis sanctis precibus, mater, adjuvemur,  
Ut cum Christo jugiter tecum gloriemur.

Ps. 92. Dominus regnavit decorem indutus

**A**VE, per quam dominus, induens decorem  
Matris Eve, moriens terminat merorem,  
Prime nos originis vocans ad honorem,  
Immo statum reparans multo meliorem.

Ps. 93. Deus ultionum, dominus deus ultionum

**A**VE, mater domini miserationum,  
Mea delens crimina spiritum da bonum,  
Ut astare valeam gaudens ante thronum,  
Cum in finem venerit deus ultionum.

Ps. 94. Venite exultemus domino; jubilemus

**A**VE, mater inclita, mater inquam dei,  
Per quem datur Sabbatum vere requiei,  
Hic est qui nos liberat anno jubilei,  
Unde nec immerito jubilamus ei.

Ps. 95. Cantate domino canticum novum;

**A**VE, per quam domino novit decantare  
Novum terra canticum laudans salutare,  
Qui nos, cum redierit orbem judicare,  
Summi patris ovibus velit aggregare.

和訳

詩篇90 いと高き方を隠れ場とする者

めでたし、言葉が肉となって貴女を纏う  
その言葉は、禁じられた木に触れて墮落した我らと  
地獄で協定を結び、共に苦しむ者となってくださって  
いのちの木により壊れた陶器の容れ物を直してくださる。

詩篇91 主に告白すること、誉め歌うことは善きこと

めでたし、貴女を通じて我らは主へ心から告白する  
貴女の力によって我らは赦しへと至るに値する者となる  
貴女の聖なる祈りによって、母よ、我らを助けたまえ  
キリストと共に、貴女と共に、我らが永く栄光に与かるために。

詩篇92 主は威厳をまとい王となられた

めでたし、貴女を通じて威厳をまとう主  
母なるエヴァの主、死して悲しみを終わらせてくださる方  
原初の主、我らを栄誉へと呼び召してくださる方  
疑いなく一層優れたところへと戻してくださる方。

詩篇93 報復の神、主よ、報復の神よ

めでたし、慈しみ深き主の母  
わが滅びゆく罪禍へ善き霊を与えたまえ  
私が玉座の前で喜び立つことができるように  
報復の主が来られる、その最後の時に。

詩篇94 さあ、主に向かって、喜び歌おう

喜びの声を上げよう

めでたし、その名を知られし母、かの母が神に言う  
かの神を通じて真なる休息である安息日は与えられる  
これぞ、ヨベルの年に我らを自由にしてくださった方  
そのゆえ貴方は、我らの喜びに値しないはずがない。

詩篇95 新しい歌を主に歌え

めでたし、ひとは貴女を通じて主に繰り返し歌うことを知る  
大地は救い主へ新しい歌を誉め歌う  
世を裁くために来られる時、かの主は我らを  
喜んで至上の祖国の羊たちに加えてくださる。

## p. 19 原文

Ps. 96. Dominus regnavit, exultet terra;

**A**VE, cujus filius regnans sine fine  
 Egrotanti factus est auctor medicine,  
 Qui naturam hominis uniens divine,  
 Fit per mortis terminum terminus ruine.

Ps. 97. Cantate domino canticum novum;

**A**VE, que libidinis non sensisti motum,  
 Per quam fecit dominus salutare notum,  
 Qui, quod erat hominis assumendo totum,  
 Egro se contemperat, sanet ut egrotum.

Ps. 98. Dominus regnavit irascantur

**A**VE, que justicie solem nube tegis,  
 Thronus facta gratie, thronus summi regis,  
 Nostri queso vigiles ad tutelam gregis,  
 Ut in nobis vigeat plenitudo legis.

Ps. 99. Jubilate deo omnis terra; servite domino

**A**VE, mater cujus est pietas immensa,  
 Cujus ope languidis salus est impensa,  
 Mentis vota suscipe jubillumque pensa,  
 Et perhenne gaudium nobis recompensa.

Ps. 100. Misericordiam et iudicium; cantabo

**A**VE, mater solitum gignens preter morem,  
 Que gignendo retines virginis pudorem,  
 Juris et iudicii fervidum rigorem  
 Per misericordie temprera dulcorem.

Ps. 101. Domine, exaudi orationem meam;

**A**VE, per quam pauperum voces exaudivit  
 Passer solitarius qui post mortem vivit,  
 Qui, per pennas diluens culpam quam nescivit,  
 Jugum mortis moriens oppido contrivit.

## 和訳

詩篇96 主は王となられた、地は喜び踊れ

めでたし、貴女の御子は終わりなく統治して  
 病める者にとっての薬の作者となられた  
 その方は人の本性を神の本性と合一させ  
 死の終わりによって滅亡を終わらせてくださった。

詩篇97 新しい歌を主に歌え

めでたし、貴女は情動を感じる事のなかった方  
 貴女を通じて主が救い主と知られた  
 かの主は、人類全体を引き受けてくださったゆえに  
 病める者を癒すため自ら病者と交わってくださった。

詩篇98 主は王となられた、彼らは震える

めでたし、その正義の太陽を貴女は雲で覆う  
 恩寵により造られし玉座よ、至高の王の玉座よ  
 私は乞う、群れの守護を願う我らの徹夜の祈りを  
 我らの内で律法が満ち繁栄するために。

詩篇99 全地よ、神に向かって喜びの声を上げよ  
主に仕えよ

めでたし、貴方の母は計り知れない敬虔  
 かの敬虔の力で弱った者が健常者となる  
 内なる誓いを支えたまえ、叫びを慮りたまえ  
 そして終わらない喜びを我らに買い戻したまえ。

詩篇100 慈しみと公正を私は歌う

めでたし、慣習を超えて習慣を生み出す母  
 その方は生み出しながらおとめの貞淑を保たれる  
 法と裁きの熱を帯びた過酷さに  
 慈しみによって甘美さを混ぜ合わせたまえ。

詩篇101 主よ、私の祈りを聞き届けてください

めでたし、貴女を通じて貧者の声は聞き届けられる  
 死のあとを生きる孤独な雀に  
 その雀は、翼によって知られざる咎を洗い流し  
 死ぬことで死のくびきを粉々にしてくださった。

p. 20 原文

Ps. 102. Benedic, anima mea, domino; et omnia

**A**VE, mater titulo benedictionis

Illustrata celitus gratieque donis,

Nos illustra cumulo miserationis

Statum mutans misere conversationis.

Ps. 103. Benedic, anima mea, domino; domine<sup>4</sup>

**A**VE, mater gratie, mater benedicta,

Maledictionibus Eve non astricta,

Moles queso criminum aufer et delicta,

Ut severi iudicis temperes edicta.

Ps. 104. Confitemini domino, et invocate nomen<sup>5</sup>

**A**VE, mater filii per quem liberantur

Qui, sub mole criminum pressi tenebantur,

Ipsi, per quem federa gratie dictantur,

Pie nos confedera cum hiis qui salvantur.

Ps. 105. Confitemini domino quoniam bonus;<sup>6</sup>

**A**VE, cujus filio pie confitemur,

Quod Egypti tenebris per hunc amovemur,

Qui pro nobis gladium ponit super femur,

Quo accinctus preliet ne nos expugnemur.

Ps. 106. Confitemini domino quoniam bonus;<sup>7</sup>

**A**VE, mater domini, qui te preelegit,

Qui catervas hostium moriens confregit,

Et, inferna visitans, predo quos abegit

A predonis faucibus preda factus egit.

Ps. 107. Paratum cor meum, deus, paratum cor<sup>8</sup>

**A**VE, nostrum gaudium, nostra spes et vita,

Cujus ope salus est egris impertita,

Generalem generis sortem non oblita

Ad eterne pabulum vite nos invita.

和訳

詩篇102 私の魂よ、主をたたえよ、すべてのものよ

めでたし、祝福の称号を持つ母

天よりの輝きと恩寵の賜物で彩られし方

我らを憐れみの堆積で彩りたまえ

悲惨な振る舞いの状態を変えることで。

詩篇103 私の魂よ、主をたたえよ、主よ

めでたし、恩寵の母、祝福されし母

エヴァの呪いに制約されない方

大いなる岩よ、私は乞う、罪禍と過ちを消したまえ

厳格なる裁きの布告を和らげるために。

詩篇104 主に感謝し、その名を呼べ

めでたし、御子の母、かの御子により人々は解放される

その人々は、罪禍という岩の下で押しつぶされ支配されていた

その人々が、かの御子によって恩寵の契約と呼ばれる

救われる者たちと我らとを信心で結びつけたまえ。

詩篇105 主に感謝せよ、善なるがゆえに

めでたし、貴女の御子へ我らは心より感謝する

エジプトの闇よりその方を通じて我らは引き抜かれたゆえに

その方は我らのために腿の上に剣を置いてくださる

我らが襲われないよう、備えた剣を磨いてくださる。

詩篇106 主に感謝せよ、善なるがゆえに

めでたし、主の母、主は貴女を先に選ばれた

かの主は死して敵の一団を滅ぼしてくださった

そして地獄を訪れると、主が奪う者となって彼らを追い出し

盗賊の峡谷から盗品を奪い返してくださった。

詩篇107 私の心は確かです、主よ、心は確かです

めでたし、我らの喜び、我らの希望にしていのち

貴女の方で病者の不具は健全になる

民の普遍的な運命を忘却することなく

永遠のいのちの糧へと我らを招き入れたまえ。

<sup>4</sup> テゲルンゼー版ではこの連は存在しない。

<sup>5</sup> テゲルンゼー版ではこの連は第103篇となっている。

<sup>6</sup> テゲルンゼー版ではこの連は第104篇となっている。

<sup>7</sup> テゲルンゼー版ではこの連は存在しない。

<sup>8</sup> テゲルンゼー版ではこの連は第105篇となっている。



## p. 21 原文

Ps. 108. Deus laudem meam ne tacueris;<sup>9</sup>

**A**VE, per quam dominus nostri miseretur,  
Cujus laus in filio digne recensetur,  
Qui, dum pacis osculum fecte non veretur,  
Sibi laudem, gloriam nobis, promeretur.

Ps. 109. Dixit dominus domino meo;

**A**VE, cujus uterus factus est castellum.  
Quod intravit dominus properans ad bellum,  
Qui sibi de restibus faciens flagellum  
Inimicos posuit pedum subscabellum.

Ps. 110. Confitebor tibi, domine, in toto corde

**A**VE, per quam genitor filium premisit,  
Redimendi populi cui curam commisit,  
In quem cum diabolus manum suam misit,  
Quos ad mortem traxerat nescius amisit.

Ps. 111. Beatus vir qui timet dominum;

**A**VE, stella nuntians veri solis ortum,  
De qua verum tenebris lumen est exortum,  
Quod in nostris mentibus reperis distortum  
Tue participio lucis sit absortum.

Ps. 112. Laudate, pueri, dominum: laudate

**A**VE, mater pueri per quem vita datur,  
Cujus laus a pueris digne predicatur,  
Per te nobis puritas vite conferatur,  
Quod in pueritie nomine signatur.

Ps. 113. In exitu Israel de Egypto; domus Jacob

**A**VE, cujus filius sudans in agone  
Mare nobis consecrat merso Pharaone,  
Qui fit predo faciens predam de predone  
Sicque predo victus est vetus a tyrone.

## 和訳

詩篇108 私の讃美する神よ、押し黙らないでください  
めでたし、貴女を通じて主は我らを憐れんでくださる  
貴女の讃美は御子に相応しく数え入れられる  
かの御子は、見せかけの平和の口づけは敬わないが、  
御自身への讃美、我らからの栄光は受け取ってください。

詩篇109 主は、私の主に言われた

めでたし、貴女の胎は城となられた  
かの城を戦へと急ぐ主が訪れた  
その方は御自身で綱から鞭を作り  
足元の敵たちへと振り下ろされた。

詩篇110 私が全身全霊で讃美する貴方、主よ

めでたし、貴女を通じて生む方が御子を送ってくださった  
かの御子に贖われるべき人民の癒しを与えてくださった  
かの御子へと悪魔たちと共に御自身の遣いを送り  
死に引き摺られていた者たちを気づかれず赦してくださった。

詩篇111 主を畏れる者は幸いな者

めでたし、真実の太陽の出現を告げ知らせる星  
貴女より真なる暗闇の光が出ずる  
貴女は我らの心の内なる歪みを見つけ出してくださる  
ゆえに貴女の光の一部とならん。

詩篇112 子よ、主を讃美せよ、讃美せよ

めでたし、御子の母、かの御子を通じていのちが与えられる  
かの御子の讃美は子らによって相応しく褒めたたえられる  
貴女を通じて我らにいのちの清らかさがもたらされる  
それは幼少期という名で刻印されしもの。

詩篇113 イスラエルがエジプトから、  
ヤコブの家が出たとき

めでたし、貴女の御子は闘争に汗を流し  
ファラオの海が流れ込み我々と交戦する  
かの御子は略奪者となりて盗賊から略奪を行う  
かくして盗賊は征服され、暴君から老人となる。

<sup>9</sup> テゲルンゼー版ではこの連は第106篇（誤植でPsal. 107と表記）  
となっている。以降、第134（136）編まで二つずつテゲルン

ゼー板とケルムスコット・プレス版は連がずれている。

p. 22 原文

Ps. 114. Dilexi quoniam exaudiet dominus;

**A**VE, norma fidei, pacis disciplina,  
Apis mella faciens, vitis fundens vina,  
Vini meri calicem filiis propina,  
Et de valle tristium transfer ad divina.

Ps. 115. Credidi propter quod locutus sum; ego

**A**VE, vitis fertilis docta propinare  
Vinum quod inebriat, vinum salutare,  
Vinum de quo dominus risum fecit fare,  
Cum promisit Abraham semen ampliare.

Ps. 116. Laudate dominum, omnes gentes; laudate

**A**VE, per quam factus est homo rex celorum,  
Cujus passim resonat laudes vox piorum,  
Te laudare jugiter summa sit votorum,  
Donec nos suscipiat chorus angelorum.

Ps. 117. Confitemini domino quoniam bonus; quoniam

**A**VE, vitis gratie, vitis salutaris,  
Quam vallavit undique lapis angularis,  
Nostram sepi veniam vallo quo vallaris,  
Ne nos ledat rabies feri singularis.

Ps. 118. Beati immaculati in via; qui ambulant

**A**VE, pia genitrix immaculatum,  
Quorum lex est currere viam mandatorum,  
Ne a via deviant pedes viatorum  
Quod nos gravat amove pondus peccatorum.

Ps. 119. Ad dominum cum tribularer clamavi; et exaudivit

**A**VE, de qua prodiit potens advocatus,  
Culpe qui determinat veteres reatus,  
Cujus patrocinio noster incolatus  
Transeat in gloriam melioris status.

和訳

詩篇114 私は愛した、主が聞き届けてくださったから

めでたし、信仰の規範、平和の規律  
蜜蜂が作りし蜂蜜水、ぶどうの蔓が基となりしワイン  
純然たるワインの入った盃を子らに飲ませたまえ  
そして悲しみの谷より神の住まいへと移したまえ。

詩篇115 私は信じた、自分が語ったゆえに

めでたし、豊かなるワインの味を知った方  
ひとを陶酔させるワイン、救済をもたらすワイン  
主が笑んでくださるワインについて語りたまえ  
アブラハムの一族を増やすと主が約束してくださったのだから。

詩篇116 主を讃美せよ、すべての民よ、讃美せよ

めでたし、貴女を通じて天の王が人となられた  
かの王を讃える信徒の声は全所で響く  
その方をたえず讃美することは願いの極地  
天使たちの歌声が我らを包み込む、その時まで。

詩篇117 主に讃美せよ、善なるがゆえに

めでたし、恩寵のワイン、救済のワイン  
隅の石が貴女をあらゆる方向から防護する  
貴女の作りし防柵で我らの恵みを護りたまえ  
個々の獣の怒りが我らを襲わぬよう。

詩篇118 罪無き道を歩く者は幸いな者

めでたし、罪なき者たちの敬虔なる生みの母  
彼らの法は戒めの道を急ぐこと  
道から逸れるなかれ、旅人たちの足  
我らを重くしている罪の重荷を取り除きたまえ。

詩篇119 苦難の時に主に呼びかけると

主は聞き届けてくださった  
めでたし、貴女より呼び求められし強き方が出てこられた  
その方は古き罪状を罪禍と見定める  
その方の庇護により我らの住処は  
より優れたる地位の栄光へと移される。

## p. 23 原文

Ps. 120. Levavi oculos meos in montes; unde veniet

**A**VE, virgo regia mundi luminare,  
 Ecce mentis tenebras potens propulsare,  
 Nos in montem doceas oculos levare  
 Quo conscendit Abraham missus immolare.

Ps. 121. Letatus sum in his que dicta sunt michi;

**A**VE, que letitiam mundo retulisti,  
 Cum in verbo gratie verbum genuisti,  
 Qui, cum nos perceperit ad tribunal sisti,  
 Ad auditu faciat non pavere tristi.

Ps. 122. Ad te levavi oculos meos; qui habitas

**A**VE, virgo thalamus facta summi ducis,  
 Que de noctis tenebris miseros educis,  
 Nostre mentis oculos leves a caducis,  
 Ut intendant radio sempiternae lucis.

Ps. 123. Nisi quia dominus erat in nobis

**A**VE, virgo gratie, mater affluentis,  
 Per quam cedit strepitus populi furentis,  
 Muni queso fortiter pedes nostre mentis,  
 Ut torrentem transeant aque vehementis.

Ps. 124. Qui confidunt in domino sicut mons

**A**VE, mons sanctissime speculationis,  
 In quo nostre sita est spes ascensionis,  
 A carnalis strepitu nos commotionis  
 Liberando filios fac adoptionis.

Ps. 125. In convertendo dominus captivitatem

**A**VE, mater affluens pacis ubertate,  
 Facta consolatio plebis captivate,  
 Nos ad portum applicans pacis peroptate  
 Plena plene perfrui para libertate.

## 和訳

詩篇120 私は山々に向かって目を上げた  
どこからくるのか

めでたし、世の光であり支配者たるおとめ  
 見よ、心の闇を取り払ってくださる力を持つ貴女は  
 山に向かって目を上げることを我らに教えてくださる  
 犠牲を捧げるために遣わされたアブラハムが登ったかの山に。

詩篇121 人々が私に言ったとき、私は喜んだ

めでたし、貴女の喜びは世に還元された  
 貴女は恩寵の言葉で言葉を生んでくださったのだから  
 その方は、壇上へ我らが座らされるのを知れば  
 悲しみに怯えることがないように聴いてくださる。

詩篇122 座している貴方に向かって私は目を上げた

めでたし、至高の指導者の寝所とされしおとめ  
 貴女は夜闇から悲惨から導いてくださる  
 我らの心の目を落ちゆくものどもから引き上げてくださる  
 永続する光の光線へと我らの心が向かうために。

詩篇123 もしも主が我らの味方でなかったなら

めでたし、恩寵のおとめ、豊穡の母  
 貴女によって人々の狂乱の騒ぎは鎮まる  
 護りたまえ、私は乞う、我らの心の歩みの強きことを  
 その歩みが猛威なる激流を渡ってゆくために。

詩篇124 主に信頼する者は山のように

めでたし、景観の至聖なる山  
 その山に我らが昇りゆくことに望みは置かれた  
 湧き立つ我らを肉の騒めきより  
 解放することで、我らを養子としたまえ。

詩篇125 主が囚われの者たちを顧みてくださるとき

めでたし、平和の豊かさで満たされし母  
 囚われし平民の慰めとなりて  
 平和を切望する我らをその門に触れさせ  
 自由で以て満足の極地を味わい尽くさせたまえ。

p. 24 原文

Ps. 126. Nisi dominus edificaverit domum;

**A**VE, domus regia quam edificavit  
Rex qui pacis gaudia mundo nuntiavit,  
Qui, dum fortis atria fortior intravit,  
Fortem ligans spolia fortis asportavit.

Ps. 127. Beati omnes qui timent dominum;

**A**VE, dei domini genitrix beata,  
Filiorum filiis plene venustata,  
Da timere dominum mente tranquillata,  
Vias nostras dirigens ejus ad mandata.

Ps. 128. Sepe expugnaverunt me a juventute mea;

**A**VE, per quam viribus hostes destituti  
Inbecilles facti sunt, debiles et mut,  
Nostre, virgo, quesumus prospice salutem  
Ut fiamus jugiter te tuente tuti.

Ps. 129. De profundis clamavi ad te, domine;

**A**VE, floris bajula cujus ad odorem  
Reviviscunt mortui, suscipe clamorem  
Ad te suspirantium, nosque per hunc florem  
Non pavere facias mortis ad horrorem.

Ps. 130. Domine, non est exaltatum cor meum;

**A**VE, cujus detulit rex humilitati,  
Cum te verbi thalamum fecit incarnati,  
Qui, pro nobis offerens se captivitati,  
Captivos reddidit prime libertati.

Ps. 131. Memento, domine, David; et omnis

**A**VE, Jesse virgula, per quam exhibetur  
Quod de David semine pater pollicetur,  
Per te quidem gratie tempus adimpletur,  
Quia per te filius pater miseretur.

和訳

詩篇126 もし、主が家を建てるのでなければ  
めでたし、王が建ててくださった支配者の家  
かの王は平和の喜びを世に告げた  
強者の広場へとより強いその方が入ったならば、  
その方は強者を縛り、その戦利品を剥ぎ取ってくださる。

詩篇127 主を畏れるすべての者は幸いな者  
めでたし、主なる神の、至福なる生みの母  
子らの子によって遍く祝福されし方  
静寂なる心で主を畏れさせたまえ  
我らの道をその方の戒めへと導きながら。

詩篇128 私が若い時から、彼らは大いに私を苦しめた  
めでたし、貴女を通じて敵たちは力を失い  
弱くされ、無力となり、押し黙る  
おとめよ、我らは求む、我らの救いを見通したまえ  
たえず貴女が見つめることで我らが護られるために。

詩篇129 深い淵の底から私は貴方に叫んだ、主よ  
めでたし、花の運び手、貴女の香りに向かって  
死者たちが起きる、叫びを聞き届けたまえ  
嘆息する者たちの貴女への叫びを、我らもこの花を通じて  
死の恐怖に怯えることがないように貴女がしてください。

詩篇130 主よ、私の心は驕っていません  
めでたし、貴女の王は謙ってください  
かの王は貴女で受肉した言葉の寝所を作られた  
かの王は、我らのために御自身を囚われの身にして  
囚人たちを元の自由な状態に戻してください。

詩篇131 主よ、ダビデを思い起こしてください  
そしてすべてを  
めでたし、エッサイの小枝、貴女を通じて示されるは  
ダビデの子孫について父が約束されたこと  
貴女を通じて確かに恩寵の神殿は果たされる  
貴女を通じて父が子らを憐れんでくださるから。



## p. 25 原文

Ps. 132. Ecce quam bonum et quam jucundum

**A**VE, gemma gratie, stillans unctionem  
Que nostrarum mentium firmat unionem,  
Nos, unitos mutuam per dilectionem,  
Vite para consequi benedictionem.

Ps. 133. Ecce nunc benedicite dominum;

**A**VE, nostrum gaudium, nostre spes salutis,  
Celi scandens solium gradibus virtutis,  
Queso fer presidium noxia secutis,  
Et a nobis excute jugum servitutis.

Ps. 134. Laudate nomen domini; laudate

**A**VE, cujus filius gratie preconem  
Nondum natus docuit exultationem,  
Doce nos, per vicii supplantationem,  
Ad beatam tendere Christi visionem.

Ps. 135. Confitemini domino quoniam bonus;<sup>10</sup>

**A**VE, virgo generans per quam liberantur  
Israel, et pharao persequens necatur,  
Solvat quisque gratias, et confiteatur  
Quod hic mirabilia solus operatur.

Ps. 136. Super flumina Babilonis illic sedimus<sup>11</sup>

**A**VE, per quam, principe victo Babilonis,  
Cantica resumimus jubilationis,  
Per materne gratiam miserationis,  
Perduc nos ad patriam exultationis.

Ps. 137. Confitebor tibi, domine, in toto corde<sup>12</sup>

**A**VE, parens inclita que sine pudoris  
Tactu nostri mater es facta salvatoris,  
Te laudantes muniat intus atque foris,  
Per te qui remedium nostri fit doloris.

## 和訳

詩篇132 見よ、なんとという麗しさ、なんとという喜び

めでたし、恩寵の宝石、香油を滴らせる方  
貴女は我らの心の結束を強くしてください  
我ら、結ばれし者たちを、相互の愛を通じて  
いのちの祝福へと至るよう誘いたまえ。

詩篇133 さあ、主をたたえよ

めでたし、我らの喜び、我らの救いの希望  
貴女は徳の段階である天の座を昇りゆく  
私は乞う、従者たちの悪行を防ぎたまえ  
そして隷属のくびきを我らから取り去りたまえ。

詩篇134 讚美せよ、主の名を、讚美せよ

めでたし、貴女の御子は恩寵の告知者へ  
その方が生まれる前から歓喜を教えてください  
我らへ教えたまえ、悪徳の悪巧みを通過して  
至福なるキリストの直視へと向かう術を。

詩篇135 主に讚美せよ、善なるがゆえに

めでたし、生み出すおとめ、貴女を通じてイスラエルは  
解放される、そして追いかけるファラオは殺される  
誰もが感謝し、讚美する  
おとめの生みしこの方だけが奇跡を為すのだから。

詩篇136 バビロンの川のほとりに我らは座る

めでたし、貴女を通じて、バビロンの首長は征服され  
我らは再び喜びの歌を歌う  
母なる憐れみの恩寵を通じて  
我らを歓喜の祖国まで導きたまえ。

詩篇137 私は貴方に感謝する、主よ、全身全霊を以て

めでたし、高名なる親、貴女は我らの恥ずべき接触なしに  
救い主の母となってください  
貴女を讚美する者たちを内からも外からも護りたまえ  
我らの悲しみの治療薬となりし貴女を通じて。

<sup>10</sup> テゲルンゼー版ではこの連は存在しない。<sup>11</sup> テゲルンゼー版ではこの連は第133篇となっている。<sup>12</sup> テゲルンゼー版ではこの連は存在しない。

p. 26 原文

Ps. 138. Domine probasti me et cognovisti me;<sup>13</sup>

**A**VE, cujus filius habitu mendici  
Carnem gerens similem carni peccatrici,  
Quasi dolo repulit dolos inimici  
Cum se mortis legibus passus est addici.

Ps. 139. Eripe me, domine, ab homine malo;

**A**VE, mater filii cujus ad congressum  
Mors evicta penitus abijt in secessum,  
Nos a malis eripe, mentis nostre gressum  
Ad paterne dirigens dextere consessum.

Ps. 140. Domine, clamavi ad te exaudi me;

**A**VE, per quam deitas carne palliatur,  
Ut ad vite semitas exul reducatur,  
Nostra sic oratio per te dirigatur  
Ut succedens actio vitam consequatur.

Ps. 141. Voce mea ad dominum clamavi;

**A**VE, de qua prodiens gigas manu fortis  
Dormientes excitat a sopore mortis,  
Redde nos consortio celice choortis,  
Ut sit cum viventibus locus nostre sortis.

Ps. 142. Domine, exaudi orationem meam;

**A**VE, mater, suscipe preces quas effundo,  
Gravis sterquilini mersus in profundo,  
Munda sordis thalamum, hauriens a fundo  
Sordes quibus ceteris amplius habundo.

Ps. 143. Benedictus dominus deus meus,

**A**VE, de qua nascitur puer Nazareus,  
Per quam, dum in prelio ruit Philisteus,  
Vite spem concipiens gaudet homo reus,  
Voce clamans libera Benedictus deus.

和訳

詩篇138 主よ、貴方は私を調べ、私を知っておられる  
めでたし、貴女の御子は物乞いの衣服となって  
罪ある肉と似た身体をまもってくださった  
あたかも策略で敵の策略を打ち払うかのように  
御自身で死の法に向かつて歩みを進められた。

詩篇139 助け出してください、主よ、邪悪な人間から  
めでたし、御子の母、かの御子の集いにおいて  
征服された死が隠れ場へと完全に逃れる  
我らを悪より助け出したまえ、我らの心の歩みを  
父の右に集う者たちのところへと導くことで。

詩篇140 主よ、私は貴方を呼び求めます  
私の声を聞き届けてください

めでたし、貴女を通じて神性は肉を包まれた  
旅路をゆく者がいのちの小道へと牽引されるために  
我らの祈りが貴女を通じて導かれる如く  
前へと進む行動はいのちへと至らん。

詩篇141 わが声よ、主に向かつて叫べ

めでたし、貴女より強き巨人が出で、その手で  
眠っている者たちを深き死の眠りから目覚めさせる  
我らを元来た場所へ連れ戻したまえ、天の絆よ  
我らの運命の場が生ける者たちと共に在らんために。

詩篇142 主よ、わが祈りを聞き届けたまえ

めでたし、母、私が叫ぶ祈りを受け取りたまえ  
重く堆積した塵の山が底へと沈められたから  
底から汲み出し、汚れのある寝所を綺麗にしたまえ  
その汚れは、他のものに増して私に溢れている汚れ。

詩篇143 わが主なる神をたたえよ

めでたし、貴女よりナザレの御子が生まれる  
ペリシテ人が戦で滅んだ一方で、貴女を通じて  
いのちの希望を受け取った罪人が喜ぶ  
解放の声を上げて叫びながら神をたたえよ。

<sup>13</sup> テゲルンゼー版ではこの連は第134篇となっている。以降、詩篇の最後である第146 (150) 編まで四つずつテゲルンゼー版と

ケルムスコット・プレス版は連がずれている。

## p. 27 原文

Ps. 144. Exaltabo te deus meus rex; et benedicam

**A**VE, de qua prodiit rex universorum,  
Regnum cujus omnium regnum seculorum,  
Rege nos, et applica cetibus eorum  
Quorum summa gloria laus est eternorum.

Ps. 145. Lauda, anima mea, dominum; laudabo

**A**VE, per quam populi factus est adjutor  
Rex qui dicit Ego sum deus et non mutor,  
Qui per mortis semitas mortis persecutor  
Fit collator gratie, liberatis tutor.

Ps. 146. Laudate dominum quoniam bonus est psalmus;

**A**VE, cujus laudibus laus est delectari,  
Cujus nos confidimus partu salutari,  
Post hanc vitam glorie palma coronari  
Si velimus domino pie conformari.

Ps. 147. Lauda, Jerusalem, dominum; lauda deum

**A**VE, mater gratie, jugi laude digna,  
Per quam victis hostibus ruit ars maligna,  
Captivatis exhibe pietatis signa,  
Nosque post exilium patrie resigna.

Ps. 148. Laudate dominum de celis; laudate

**A**VE, per quam tollitur hominum pressura,  
Cujus laudes reboat omnis creatura,  
Laudes quas offerimus acceptare cura,  
Nos beatitudine ditans permansura.

Ps. 149. Cantate domino canticum novum;

**A**VE, fons clementie venieque vena,  
Per quam nobis redditur vite cantilena,  
A peccatis solve nos et peccati pena,  
Et beatitudinis perduc ad amena.

## 和訳

詩篇144 わが神、王よ、貴方をたたえ、崇めます  
めでたし、貴女より宇宙の王が出でた  
その方の王権は、すべての世の王権  
我らを支配し、かの者たちの集いへと招き入れたまえ  
至高の栄光が永遠の讃美となる、かの者たちの集いへと。

詩篇145 私の魂よ、主を讃美せよ、私は讃美しよう  
めでたし、貴女を通じて民の助けてとなられるは  
「私は神である。変わることはない」と言いし王  
その方は死の狭き道を通って死の迫害者となり  
恩寵の寄贈者、自由の守護者となってくださる方。

詩篇146 主を讃美せよ、讃美の歌は善なるがゆえに  
めでたし、貴女の讃歌による讃美は喜ばれること  
我らは確信する、貴女の出産により我らが救われることを  
この世の生ののちに栄光ある棕櫚の枝で戴冠されることを  
我らが心から主と一致することを望むのならば。

詩篇147 エルサレムよ、主を讃美せよ、主を讃美せよ  
めでたし、恩寵の母、たえざる讃美に値する方  
貴女を通じて敵たちが征服され、悪しき行状は滅んだ  
捕虜たちに示したまえ、敬虔のしるしを  
我らにも開きたまえ、祖国の外の旅路のあとに。

詩篇148 天より主を讃美せよ、讃美せよ  
めでたし、貴女を通じて人々の苦悩は取り除かれる  
貴女の讃歌をすべての被造物が繰り返し歌う  
その讃美は、癒しを受け取ることを求む、我らの讃美  
持続する至福で以て我らを豊かにしてくださる癒しを。

詩篇149 主に新しい歌を歌え  
めでたし、恵みの泉、赦しの力  
貴女を通じて我らに古きいのちの歌が戻される  
我らを罪と罪の罰から解放したまえ  
そして至福の在る愛しき場所へと導きたまえ。

p. 28 原文

Ps. 150. Laudate dominum in sanctis ejus;

**A**VE, laus fidelium, jubar sanctitatis,  
Domini triclinium, thronus majestatis,  
Placa nobis filium precibus beatis,  
Servos tuos munerans dono libertatis.

Luke I. v. 26. Ave Maria, gratia plena, dominus tecum.<sup>14</sup>

**A**VE, celi gloria, terre fundamentum,  
Cujus fit in utero continens contentum,  
Tue nobis gratie prestat incrementum  
Quod ad tue scribimus laudis monumentum.

Luke I. v. 46. Magnificat anima mea dominum

**A**VE, cujus anima nuntio letata  
Dominum magnificat plus humilitata,  
Quod fit major generans deum hinc beata  
Dicitur a seculis felix ad hoc nata.

Luke II. v. 29. Nunc dimittis servum tuum domine;

**A**VE, cujus templo presentatur,  
Salutare gentium seni revelatur,  
Sicque petit postmodum paci dimittatur,  
Que nostris laboribus tandem conferatur.

Luke I. v. 68. Benedictus dominus deus Israel; quia

**A**VE, deum pariens quem pater preconis  
Benedicens predicat resurrectionis,  
Cornu quod premiserat erecturum bonis,  
Ad quod nostros dirigit pedes rationis.

Te deum laudamus; te dominum

**A**VE, cujus filio cetus angelorum  
Sanctus clamant jugiter, nos a vitiorum  
Labe munda, perfrui in regno celorum  
Fac nos cum felicibus premiis justorum.

和訳

詩篇150 主の聖所で主を讃美せよ

めでたし、信徒たちの讃美、聖性の輝き  
主の食堂、威厳の玉座  
至福なる祈りによって我らと御子を和解させたまえ  
貴女の僕たちへ自由という賜物を贈り与えるために。

ルカ伝1:26 アヴェ・マリア、恵みに満ちた方  
主は貴女と共におられます。

めでたし、天の栄光、地の礎  
貴女の胎で満ち足りた方がお生まれになる  
貴女の恩寵の増し加わりが我らに示されたことを  
貴女の喜びの記念として我らは記す。

ルカ伝1:46 私の魂は主を崇めます

めでたし、貴女の魂は喜ばしき報せ  
その魂が主を一層謙譲に崇めるのは  
神を生む偉大な方となることで至福者となられたから  
この生誕は世々にわたって幸福と言われる。

ルカ伝2:29 主よ、今こそ貴方はその僕を  
去らせてくださいます

めでたし、貴女の神殿に示される  
古き民の救済が明かされる  
かくしてその後、安らかに去らせてくださることを彼は願う  
我らの働きによって最後にはかの平和が与えられるのだ。

ルカ伝1:68 イスラエルの神である主は  
ほめたたえられますように

めでたし、神を生みし方、告知者の父はかの者を  
祝福し、復活を予告された。  
かの父が送りし角は善によって高く伸ばされた  
我らの理性の足を導くために。

貴方よ、神よ、我らは讃美する、貴方よ、主よ

めでたし、貴女の子に天使たちの聖なる集団が  
たえまなく呼び声を上げる、「我らを悪徳への墮落から  
清めたまえ、天の王国で十分に  
義人たちの幸福な報酬を享受させたまえ」と。

<sup>14</sup> 正しくは第28節。第26節 (v. 26) となっているのは、モリス  
もしくはモリスが参照した文献の誤植と思われる。



## p. 29 原文

**A**VE, virgo generans moris fracto jure,  
De qua gigas prodiit gemine nature,  
Tu, miserta miseris, subveni pressure,  
Nos in lucem transferens glorie venture.

**A**VE, nostri generis parens et patrona,  
Supra cunctas possidens gratiarum dona,  
Tuis sanctis precibus meritisque dona  
Ne mens nostra solito sit ad malum prona.

**A**VE, virgo supplice potens exaudire,  
Que sunt deo placita fac nos tecum scire,  
Et, cum iudex venerit atque dies ire,  
Judicis ad dexteram jube nos venire.

**D**EMUM, dei genetrix, laudes acceptare  
Cura quas offerimus nosque presentare  
Per has deo satagas, ut, cum iudicare  
Venerit, nos ovibus velit aggregare.

**V**IRGO sancta, suscipe mentis in conclavi  
Verba quibus tociens veniam rogavi,  
Et audito sepius ave tam suavi  
Fac me queso liberum prorsus a ve gravi.

## 和訳

めでたし、法が定めし慣習の破壊を生み出すおとめ  
貴女より似た本性を持つ巨人が出でた  
貴女よ、悲惨な者を憐れみたまえ、虐げられし者を支えたまえ  
我らを来る栄光の光へと送ることで。

めでたし、我らの生みの親にして庇護者  
全体を超えて恩寵の賜物を所有されている方  
貴女の聖なる祈りと功德による賜物を所有されている方  
我らの心が墮落して悪へと親しまないようにしたまえ。

めでたし、請願を聞き届ける力をもつおとめ  
神に喜ばれる方、我らが貴女と共に在ることを知りたまえ  
そして裁きが、怒りの日が来るその時に  
我らが右の方へ来るように審判者へ執り成したまえ。

唯一人、讃歌を受け取りし、神生みし母  
我らが求め、我らに示されし、癒し  
これらの癒しによって我らを神で満たしたまえ、裁きの時  
我らが羊たちに加わることをその方が望まれるために。

聖なるおとめ、心の部屋を支えたまえ  
私が度々赦しを乞うた、その言葉によって  
私が何度も聞いた、かくも甘い挨拶によって  
私が重苦から離れ、真っ直ぐ自由を求めるようにさせたまえ。

SUMME SUMMI  
TU PATRIS UNICE,  
MUNDI FABER  
ET RECTOR FABRICE,  
PIETATIS  
AFFECTU DEICE  
PECCATORES AFFLICTOS  
RESPICE, **PIE PATER.**

Summa summi tu mater filii,  
Clavem nostri tenens auxilii,  
Desolatos hujus exilii  
Tui fove lacte consilii, **pia mater.**

Consolentur, O bone domine,  
Respirantes in tuo nomine,  
Qui pro mundi tollendo crimine  
Dignatus es nasci de virgine, **matris pater.**

Consolentur, O bona domina,  
Sitientes tua solamina,  
De qua sola felici femina  
Predicantur hec duo nomina, **virgo mater.**

O figura patris substantie,  
Qui es splendor paterne glorie.  
Tu ille fons misericordie  
De quo manat tocius gratie **plenitudo.**

O regina regni Davitici,  
Tu es virga floris dominici,  
Tu es archa panis angelici,  
De qua nostra mereat refici **solitudo.**

至高の中の至高なる方よ  
唯一の父である貴方よ  
世の創造者であり  
建築術の指導者である方よ  
敬虔なる  
愛情によって打ち倒したまえ  
苦しむ罪人たちを  
顧みたまえ、**聖なる父よ。**

至高の御子の至高の母である貴女よ  
我らを助ける鍵を握っておられる方よ  
この旅路をゆく見捨てられた者どもを  
貴女の助言という乳で力づけたまえ、**敬虔なる母よ。**

貴方は慰めてくださる、おお、善き主人よ  
貴方の名を呼びながら呼吸している者たちを  
世の罪禍を消すために  
貴方はおとめから生まれくださった、**母の父よ。**

貴女は慰めてくださる、おお、善き女主人よ  
貴女の慰めに渴いている者たちを  
幸福なる女性である貴女についてのみ  
この二つの名が告げられる、**おとめなる母よ。**

おお、父の実体のかたちよ  
貴方は父の栄光の輝きである方  
貴方はかの憐れみの泉  
その泉から生じるのは、あらゆる恩寵の**充溢。**

おお、ダビデの王国の女王よ  
貴女は主の花の小枝  
貴女は天使の食物を取めた箱  
貴女によって埋められるのは、我らの**孤独。**

<sup>15</sup> pp. 30-33の箇所はテゲルンゼー版には記されておらず、別の

讃歌が収録されている。

## p. 31 原文

Virtus patris et sapientia,  
 Tu et pater una substantia,  
 Suaviter disponens omnia:  
 Equus honor equalis gloria **est utrique.**

Stella maris, regina seculi,  
 Tu es mater illius parvuli  
 Quem adorant fideles populi  
 Semper omnes et semper singuli **et ubique.**

O sanctorum sancte, mirabilis,  
 Toti mundo desiderabilis,  
 Homo potens et deus humilis,  
 Non est tibi nec erit similis, **homo deus.**

O sanctarum sancta, dulcissima,  
 Sola partu tanto dignissima,  
 Ut de tua carne mundissima  
 Nasceretur potestas maxima, **deus meus.**

Jhesu Christe, fons indeficiens,  
 Fons humana corda reficiens,  
 Te suspiro, te solum siciens,  
 Solus eris michi sufficiens **fili dei.**

Mater Christi, decus virgineum,  
 Thronum sedens super ethereum,  
 Tuum nomen sapore melleum  
 Liquefaciat affectum ferreum **cordis mei.**

Summum bonum, plenum dulcedine,  
 Lumen verum de vero lumine,  
 Solo cujus audito nomine  
 Satiatur mira pinguedine **mens justorum.**

## 和訳

父の力にして知恵よ  
 貴方と父は一つの実体  
 貴方は万物を甘美に配して下さる  
 かの馬に等しきは、名誉と栄光、**その両方である。**

海の星、世の女王よ  
 貴女はかの小さき御子の母  
 その方を信心ある民たちは崇める  
 常に皆が、常に個人が、**そして何処であれ。**

おお、聖者の中の聖者、驚異なる方よ  
 全地に望まれし方よ  
 力ある人にして謙りし神よ  
 貴方に似ておらず、似てゆくでもない、**人である神よ。**

おお、聖女の中の聖女、いと甘美なる方よ  
 かくも大事な出産に最も相応しき唯一の方よ  
 貴女の最も清らかなる肉から  
 いと高き権能がお生まれになるのだ、**わが神が。**

イエス・キリスト、尽きることなき泉よ  
 ひとの心を新たにする泉よ  
 私は貴方へ息を吐く、貴方だけに渴いているから  
 私を満たして下さる方は唯一人、**神の子よ。**

キリストの母、おとめたちの誉れよ  
 空の向こうの玉座へ座しておられる方  
 甘き味のする貴女の名が  
 鉄のような情意を溶かす、**わが心の。**

最高善、甘さに満ちた方よ  
 真なる光より出でし真なる光よ  
 貴方の名が聞かれることによってのみ  
 驚くべき豊かさで満たされるのだ、**義人たちの心が。**

p. 32 原文

Summi boni reclinatorium,  
Dulcis vini dulce cellarium,  
Quod indulgans dulcedo dulcium  
Nasciturus elegit proprium **rex celorum.**

Patrum pater precelse, ceteris  
Reparator humani generis,  
O qui carnem pro nobis miseris  
Mulieris de carne pauperis **assumpsisti.**

Matrum mater et virgo virginum,  
Apothecha salutis hominum,  
O que carne de munda dominum  
Sine carnis mixtura seminum **produxisti.**

Audi, precor, O qui das gratiam,  
Peccatoris hujus miseriam,  
Et per tuam misericordiam,  
Peccatorum meorum veniam **michi dona.**

Audi, precor, O plena gratia,  
Peccatoris hujus suspiria,  
Et pro tua misericordia  
Deo meo me reconcilia, **mater bona.**

Tibi, pater, duc beneplacitum  
Peccatoris istius gemitum,  
Solve mei reatus debitum,  
Quia malum pretendo meritum **et pretendi.**

Tibi, mater, duc acceptabilem  
Peccatoris hanc vocem flebilem,  
Redde michi deum placabilem  
Ne se prestat inexorabilem, **quem offendi.**

和訳

最高善の背を支える座よ  
甘きワインの甘き貯蔵庫よ  
諸々の甘みの甘さが甘くしているところのものを  
己がものとして選ばれたのだ、生まれんとする**天の王が。**

他の国に勝る祖国の父よ  
人類を新たにされる方よ  
おお、貴方は憐れな我らのために肉を  
貧しき女性の肉から**受け取ってくださった。**

母の中の母にしておとめの中のおとめよ  
人々の救いの貯蔵庫よ  
おお、貴女は清らかなる肉から主を  
性的な肉の交わりなしに**お生みになった。**

私は乞う、おお、恩寵を与えてくださる方よ、聞きたまえ  
この罪人の悲惨を  
そして貴女の慈しみを通じて  
わが罪人たちの赦しを**私に与えたまえ。**

私は乞う、おお、充溢する恩寵よ、聞きたまえ  
この罪人の嘆息を  
そして貴女の慈しみを通じて  
わが神と私を和解させたまえ、**善き母よ。**

父よ、貴方が喜ぶものへと導きたまえ  
かの罪人の苦鳴を  
わが罪禍の負債を取り去りたまえ  
私は悪を利と主張して、**偽ってしまうのだから。**

母よ、貴女が容認できるものへと導きたまえ  
罪人のこの嘆きの声を  
戻したまえ、私に寛容なる神を  
不寛容を示されることがないように、**私のお会いした方が。**



## p. 33 原文

O intacte fili puerpere,  
 Audi planctus anime misere,  
 Que, peccati jacens in pulvere,  
 Ut jumentum computrescere **lamentatur.**

O intacta virgo puerpera,  
 Ad te clamat mens nostra misera,  
 Que nefanda semper ad scelera  
 Ab etate nunc usque tenera **effrenatur.**

Pie pater, errantem corrige,  
 Piam manum jacenti porrige,  
 Jam de luto me fecis erige,  
 Et in viam tuorum dirige **mandatorum.**

Pia mater, errantem visita,  
 Pio corde de me recogita,  
 Coram Jhesu benigno clamita,  
 Ut meorum dimittat debita **delictorum. Amen.**

## 和訳

おお、疵なくして生まれし御子よ  
 憐れなる魂の苦悶を聞きたまえ  
 その魂は、罪という塵の中に沈みゆく  
 荷を負う獣が腐りゆくことを**嘆くようにして。**

おお、疵なくして生みしおとめよ  
 我らの憐れなる心は貴女へ叫ぶ  
 冒瀆的な行為について叫ぶその張り詰めた心は  
 長きにわたり今に至るまで優しき方が**緩めてくださる。**

敬虔なる父よ、彷徨える者を正しき道へと戻したまえ  
 病める者に敬虔な御手を差し出したまえ  
 既に泥の澱の中にいる私を引き上げて  
 かの道へと導きたまえ、貴方が**命じられたかの道へ。**

敬虔なる母よ、彷徨える者のところへ訪れたまえ  
 敬虔な御心によって私を顧みたまえ  
 御前でイエスの親切に訴えたまえ  
 かの負債を赦したまえ、**私が返済を怠っているあの負債を。  
 アーメン。**